

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

1) 定員設定の考え方

食マネジメント研究科は、研究科の研究指導可能教員数および専任教員をもとにした教学条件、全国大学院の商学・経済学系統（以下、学問系統は学校基本調査の区分による）ならびに食関連の学問系統を取り巻く一般的な志願状況、独自に行った大学生へのアンケート結果をもって、入学定員を博士課程前期課程 20 人・博士課程後期課程 3 人、収容定員を博士課程前期課程 40 人・博士課程後期課程 9 人とした。

食マネジメント研究科は、食の経済活動に係わる複合的な知見と分析・研究能力を持ち、かつ問題解決と運営のためのマネジメント能力を備えた「食マネジメント人材」を養成することを目的とした、経済学関係を主たる学位の分野とする教育研究を行う研究科である。同研究科の入学定員および収容定員の設定にあたっては、下記の「2）」にその根拠となるデータを示すとともに、次項「イ」において詳細な分析結果を述べ、これらの定員充足の見込みを前提として、入学試験ごとの募集人数の妥当性と受験生確保の見込み、学生納付金収入による教育研究の持続性といった観点を総合的に勘案した。

2) 定員充足の見込み

(i) 博士課程前期課程における商学・経済学系統ならびに食関連系統の志願者動向

食マネジメント研究科は、先述のとおり、食マネジメント人材を養成することを目的とした経済学関係を主たる学位の分野とする研究科であることから、本研究科への入学を希望する志願者の中心の一つとなるのは商学・経済学系統の大学院を進学先として志願する者であると考えられる。この商学・経済学系統の志願者数について、平成 30 年度学校基本調査によれば、修士課程（博士課程前期課程を含む）における文系 7 系統（文学史学、哲学、法学・政治学、商学・経済学、社会学、その他）のうち、商学・経済学系統は志願者が最も多く、2018（平成 30）年度においては、修士課程入学志願者総数 116,125 名の 9.5%にあたる 10,984 名が商学・経済学系統を志願している。また複雑に絡みあった現代の食をめぐる諸課題を解決するには、マネジメント能力を身につけるための経済学・経営学を中心としたアプローチに、文化人類学、歴史学や地理学などの人文学系、そして栄養学などの自然科学系の知見を活かした研究・教育を行い、食の奥深い教養を身に付けて社会実装化を企図できる高度職業人や研究者を養成していくことを目指しており既存の食関連系統（栄養学、食物学）ならびに人文科学系統からの志望者も想定している。それを加味した場合は、修士課程入学志願者総数の 21.9%にあたる 25,430 名が対象となる。

このように商学・経済学系統の志願者数の規模の大きさと、本研究科の学際性による志願者の幅広さから、入学者を比較的確保しやすい状況にあるといえる（資料 1 「18 専攻分野別大学院入学状況(3-1) 平成 30 年度学校基本調査」）。

(ii) 博士課程後期課程における商学・経済学系統ならびに食関連系統の志願者動向

(i)と同様に、博士課程（博士課程後期課程を含む）においても、商学・経済学系統は志願者が最も多く、2018（平成 30）年度においては、博士課程入学志願者総数 18,059 名の 3.9%に

あたる 702 名が商学・経済学系統を志願している。また、食関連系統（家政学、食物学）ならびに人文科学系統からの志望者を加味した場合は、博士課程入学志願者総数の 12%にあたる 2,226 名が対象となる。

商学・経済学系統の志願者数の規模の大きさと、志願者の幅広さから、入学者を比較的確保しやすい状況は修士課程と同様である（資料 2 「18 専攻分野別大学院入学状況(3-2) 平成 30 年度学校基本調査」）。

(iii) 博士課程前期課程における大学生向けアンケート調査結果に見る確保の見込み

食マネジメント研究科の新設に伴い、学生確保の見通しについて、大学生に 2 件のアンケート調査を実施した。全国の大学生へのアンケート（資料 3 立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科 進学意向に関する調査報告書）に回答したのは、412 名である。また、立命館大学生へのアンケート（資料 4 食に関わる大学院構想についてのアンケート調査報告書）も行った。アンケートに回答したのは、立命館大学生 1,100 名である。

全国の大学生（N=412）へのアンケートにおいて、受験意向については、15.5%・79 名（候補の 1 つとして検討する 3.2%、候補の 1 つとして検討する可能性がありそう 16.0%）であった。「候補の 1 つとして、検討する可能性がわずかにありそう」まで加えると、51.0%・210 名が受験意向を示した。さらに、受験意向のある回答者 210 名に対して合格した場合の進学意向を尋ねた結果、22%・47 名（是非進学したい 2.4%、進学を検討したい 20.0%）が強い意向を示した。なお、大学 3 年生に限ると、受験意向のある回答者 66 名に対して強い進学意向を示したのは 21.2%・14 名（是非進学したい 1.5%、進学を検討したい 19.7%）であった。

立命館大学生（N=1,100）へのアンケートにおいて、受験意向については、21.2%・212 名（候補の 1 つとして、検討する 6.0%、候補の 1 つとして、検討する可能性がありそう 13.3%）であった。さらに、合格した場合の進学意向を尋ねた結果、21.5%・237 名（是非進学したい 4.5%、進学を検討したい 17.0%）が強い意向を示した。

なお、大学 3 年生に限ると、強い進学意向を示したのは 18.9%・24 名（是非進学したい 5.3%、進学を検討したい 15.9%）であった。

(iv) 博士課程前期課程における採用業務従事者向け調査結果に見る確保の見込み

規模が 50 名以上の企業で、人事・総務に所属する採用業務従事者（N=412）を対象としたアンケート調査（資料 5 立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科修士に対する企業採用意向調査報告書）を実施した。教育・研修の場としての本研究科への従業員派遣について、54%・222 名（是非派遣したい 8.5%、派遣を検討したい 14.1%、条件さえ合えば派遣を検討したい 31.3%）が派遣意向を示した。また、1000 人以上の企業規模を持つ採用業務従事者（154 名）に限定して集計すると、62%・95 名に本研究科への派遣意向が窺える（是非派遣したい 13.0%、派遣を検討したい 17.5%、条件さえ合えば派遣を検討したい 31.2%）結果となった。

このような全国の大学生ならびに立命館大学生、また企業の採用業務従事者への調査結果から見れば、食マネジメント研究科博士課程前期課程への社会的な需要が存在するものと考えられ、入学定員は確実に充足すると見込む事ができる。

(iv) 博士課程後期課程における大学教員向けアンケート調査結果に見る確保の見込み

学生確保の見通しについて、主に西日本の 14 大学の家政系学部の研究職ならびに日本官能

評価学会第 86 回企業部会定例会出席者へのアンケート調査 (N=43) (資料 6 立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科博士後期課程アンケート調査結果) を実施した。回答したのは 43 名である。受験意向については、65.1%・28 名 (入学して研究を行いたい 9.3%、どちらかと言えば入学して研究を行いたい 55.8%) であった。さらに、身近な研究者や大学院生で、志望意向のある者の有無を尋ねた結果、90.7%・39 名 (興味を持ち、志望する人がいる 4.7%、興味を持ち、志望する人がいるかもしれない 86.0%) となった。このように、家政学系分野、官能評価分野だけを見ても高いニーズが認められた。他の関連分野も含めれば、入学定員は確実に充足すると見込む事ができる。

上記のように、食マネジメント研究科の定員は、学校基本調査に見る商学・経済学系統の志願者数の規模の大きさと志願者の幅広さ、今般実施した大学生ならびに企業採用担当者、家政学部系教員へのアンケート調査で、十分な入学希望者ならびに派遣意向があること、この 4 点から入学定員の充足が可能であると判断した。

なお、本学グローバル教養学部の定員充足率が 0.7 倍を下回っているが、当該学部は学期ごとの定員はもうけていないものの、入学定員 100 名のうち 4 月入学は 50 名 (オーストラリア国立大学において 1 年次の履修を開始する学生 10 名を含む)、9 月入学は 50 名を目安に募集を行っている。2019 (令和元) 年度の定員充足率は、入学辞退者が予想以上に多くなったために 0.65 倍となったが、2020 (令和 2) 年 4 月 10 日時点での 4 月入学者数は 45 名で、現時点での入学定員充足率は 0.55 倍である。加えて 9 月入学者数については、留学生を対象としているため COVID-19 の影響が懸念されるが、5 月 1 日時点で 82 名が合格 (入学手続き未了者を除く) している。これらのことから、2020 (令和 2) 年度については入学定員 100 名を充足できる見通しがあり、志願者も充分確保できていることから、定員設定は適切である。

また、国際関係学部アメリカン大学・立命館大学国際連携学科 (入学定員 25 名) も定員超過率が 2020 (令和 2) 年 4 月段階で 0.7 倍未満となっているが、同学科も学期ごとに定員を設けずに 9 月入学の募集人員を含み、同様に安定的な学生確保の見通しがあることから、適切な定員設定となっている。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

食マネジメント研究科の新設に伴い、大学生へのアンケートによるデータを収集して分析を行った (資料 3 食マネジメント研究科 進学意向に関する調査報告書および資料 4 食に関わる大学院構想についてのアンケート調査報告書)。なお、この調査においては、一般の大学生へのインターネットアンケート、立命館大学生へのアンケートを実施している。

1) 博士課程前期課程における全国の大学生向けアンケート調査結果に見る確保の見込み

- ・調査対象：マクロミルモニターに登録する全国の 18~22 歳の男女のうち、大学 1~3 年生 (2019 (令和元) 年 5 月時点)
- ・実施人数：412 人
- ・調査方法：6,485 人に対してインターネットにて事前調査を行い、その回答者のうち大学 1~3 年生に対してインターネットにて本調査を実施
- ・調査期間：2019 (令和元) 年 5 月 9 日~5 月 14 日
- ・アンケート対象者への開示情報内容

: 研究科専攻名称、設置の理念、養成する人材像、大学院概要、カリキュラム概要、想定進路、設置場所、学生納付金

全国の大学生向けアンケートでは、全 25 の学部のうち、21 の学部にて在籍している学生が受験意向（候補の 1 つとして検討する、候補の 1 つとして検討する可能性がありそう）と答えており、食マネジメント研究科の裾野の幅広さを示している。

また、食マネジメント研究科の概要を示した上で、学びに関する興味および受験意向、進学意向について回答を求めた。食マネジメント研究科への興味に関しては、全回答者のうち、「興味が湧く」4.9%、「やや興味が湧く」34.7%となっており、アンケート対象となっている大学生のうち、40.0%が何らかの興味を持っている事が判明した。

その上で、受験意向については、「候補の 1 つとして、検討する」3.2%、「候補の 1 つとして、検討する可能性がありそう」16.0%であった。さらに検討の余地を残している層、「候補の 1 つとして、検討する可能性がありそう」は 31.8%であった。

2) 博士課程前期課程における立命館大学生向けアンケート調査結果に見る確保の見込み

- ・調査対象：立命館大学教養科目「世界と日本の食文化」ならびに食マネジメント学部科目「入門演習」受講生
- ・実施人数：1,100 人
- ・調査方法：立命館大学教養科目「世界と日本の食文化」3 クラスの受講生（文学部、映像学部、経済学部、スポーツ健康科学部、生命科学部、経営学部、政策科学部、総合心理学部）ならびに食マネジメント学部科目「入門演習」12 クラスの受講生（食マネジメント学部）にアンケート用紙を配布し、5 分程度の回答時間を設け、その場で回収した。
- ・調査期間：2019（令和元）年 4 月 23 日から 4 月 24 日
- ・アンケート対象者への開示情報内容：
研究科専攻名称、設置の理念、養成する人材像、大学院概要、カリキュラム概要、想定進路、設置場所、学生納付金

食マネジメント研究科にとっても学生層の多くを確保する立命館大学の学部生へ、食マネジメント研究科の概要を示した上で、進路意向、研究科への興味、および受験意向、進学意向について回答を求めた。

大学卒業後の進路については、「就職するが、いずれどこかの研究科に進学したい」も含めて 17.9%が研究科と回答しており、進学への意欲の高い層であると言える。その上で、「食マネジメント研究科」への興味を尋ねたところ、「興味が湧く」14.6%、「やや興味が湧く」37.8%であった。

次に本研究科への受験意向を尋ねたところ、「候補の 1 つとして、検討する」6.0%、「候補の 1 つとして、検討する可能性がありそう」13.3%であった。おおよそ 19.3%が受験への意欲を持っている事となる。

さらに合格した場合の本研究科への進学への意欲を尋ねたところ、「是非進学したい」4.5%、「進学を検討したい」17.0%、「どちらかと言えば、進学を検討したい」35.7%と、進学したいと考える者の方が多くなっていた。

3) 博士課程前期課程における企業採用担当者向け調査結果に見る確保の見込み

- ・調査対象：マクロミルモニターに登録する全国の 20～59 歳の男女のうち、規模が 50 名以上

の企業で、人事・労務に所属する採用従事者（2019（令和元年）年5月時点）

- ・実施人数：412人
- ・調査方法：7,943人に対してインターネットにて事前調査を行い、その回答者のうち規模が50名以上の企業で、人事・労務に所属する採用従事者に対してインターネットにて本調査を実施
- ・調査期間：2019（令和元）年5月10日（金）～5月11日（土）
- ・アンケート対象者への開示情報内容：
研究科専攻名称、設置の理念、養成する人材像、大学院概要、カリキュラム概要、想定進路、設置場所、学生納付金

食マネジメント研究科の概要を示した上で、本研究科の社会的必要性和、卒業生の採用意向、従業員の派遣検討意向について回答を求めた。社会的必要性としては「必要だと思う」18.7%、「どちらかといえば必要だと思う」40.8%であった。

その上で、従業員の本研究科への派遣検討意向について回答を求めたところ、「是非派遣したい」8.5%、「派遣を検討したい」14.1%、「条件さえ合えば派遣を検討したい」31.3%となり、合わせて過半数の54%（222名）の採用業務従事者から派遣検討意向があるという回答が得られた。さらに、1000人以上の企業規模を持つ採用業務従事者（154名）に限定して集計すると、62%（95名）に本研究科への派遣検討意向が窺える結果となった。

4) 博士課程後期課程における企業・大学・研究所向けアンケート調査結果に見る確保の見込み

- ・調査対象：①以下の大学の家政系学部の研究者（2019（令和元）年5月時点）

岐阜女子大学家政学部、くらしき作陽大学食文化学部、中部大学応用生物学部、岡山県立大学保健福祉学部、鳴門教育大学、名古屋女子大学、京都女子大学、京都華頂大学、静岡大学、名古屋女子大学短期大学部、京都教育大学、大阪府立大学経済学研究科観光・地域創造専攻、名古屋大学国際教育協力研究センター、帝塚山学院大学

- ②日本官能評価学会第86回企業部会定例会（2019（令和元）年5月17日）出席者

- ・実施人数：43人
- ・調査方法：上記の大学家政系学部・研究所の研究者ならびに日本官能評価学会代86回企業部会定例会の出席者に対してインターネットにて本調査を実施
- ・調査期間：2019（令和元）年5月20日（月）～5月28日（火）
- ・アンケート対象者への開示情報内容：
：研究科専攻名称、設置の理念、養成する人材像、大学院概要、カリキュラム概要、想定進路、設置場所、学生納付金

食マネジメント研究科の概要を示した上で、本研究科への興味の有無と入学意向、身近な研究者や大学院生の志望意向について回答を求めた。

本研究科への興味の有無については、「興味が湧く」23.3%、「やや興味が湧く」62.8%であった。入学意向については、「入学して研究を行いたい」55.8%、「どちらかと言えば入学して研究を行いたい」9.3%と高い割合を示した。さらに、身近な研究者や大学院生で、志望意向のある者の有無を尋ねた結果、「興味を持ち、志望する人がいる」4.7%、「興味を

持ち、志望する人がいるかもしれない」86.0%となり、高いニーズが認められた。

ウ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金を設定する際には、できうる限りの学生負担の軽減を考慮しつつ、教育研究の充実と研究条件および環境を維持・継続するために必要な金額を設定している。

食マネジメント研究科では、食に関わる社会科学系、人文科学系、自然科学系を経済学・経営学を軸として食に関する複数の知見と分析・研究能力を身につけるための教育研究の充実を考慮した上で、問題解決と運営のためのマネジメント能力を備えるための実践的な教育研究を教育課程に含んでいることから、実験・実習にかかる費用に関しても学生納付金として設定する。

また、学生納付金を設定する上では上記の条件を踏まえつつ、「食」に関わって経済学分野に近い教育を実施する他の私立・国立・公立大学の大学院・専攻等の学生納付金を参考とした。

比較対象とした研究科・専攻における、2019（令和元）年度学費を基準とした初年度納付金を比較する（資料7「学生納付金一覧」）と、博士課程前期課程においては、食に関わる経済学に近い分野の教育研究を提供している宮城大学食産業学研究科食産業学専攻、龍谷大学大学院農学研究科食農科学専攻と同程度の学生納付金となる。また、博士課程後期課程においては、北海道大学国際食資源学院国際食資源学専攻と同程度の学生納付金となる。

以上、設定された学生納付金は、食マネジメント研究科の実習、実践教育を十分に行うことができ、かつ納付金の水準は他大学、他研究科と比べても妥当なものと判断できる。

上記のような学生納付金の設定に関する前提および比較対象となる研究科・専攻の学生納付金を踏まえた上で、食マネジメント研究科の博士課程前期課程の初年度学生納付金は1,001,200円、2年次以降は801,200円、博士課程後期課程の初年度納付金は700,000円、2年次以降は500,000円とする。

②学生確保に向けた具体的な取組状況

1) 2020（令和2）年度における取組予定

学内関係部署との密接な連携のもとに、大学院進学相談会をはじめとした組織的な広報活動に取り組む。また、学生募集とともに社会的認知を向上させるためにも、具体的な学びと将来像の可能性についての広報活動を実施する。具体的には研究科パンフレットを作成し、関連の学会や人的ネットワークを活用して食マネジメント研究科の教育理念や人材育成目的等について、積極的に進学を検討する可能性の高い層へ訴求する。合わせて、大学案内パンフレットや大学の入試サイトへの掲載、ホームページのさらなる充実を図る。

（2）人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本研究科における主たる研究対象は、食関連の、第2次産業（製造・加工業）、第3次産業（外食産業・流通業）の経済活動、消費および政策である。食に関わる経済活動の諸課題の認識と実践的な解決には、この一連の経済的な仕組みと事業組織、それらと深く関連する人々の消費行動、さらには文化や健康、地域コミュニティなどへの深い洞察力が必要である。そのためには、産業組織論や行動経済学、ファイナンス、食料経済学、経営戦略論、マーケティング論などの経済学・経営学分野に、食の歴史学、食文化論、食の地理学、健康マネジメント論などの知見を取り込み、課題に則して解決策を講じられる教育・研究を行う必要がある。この研究を我々は「食マネジメント研究」と呼ぶ。

本研究科では、実社会における食に関わる経済的課題として、①食に対する経営・イノベーション、②食を通じた多文化共生の地域社会づくり、③食を通じた福祉・健康コーディネーション、を想定している。例えば、地域の人々の生活に寄り添った新たな食のサービスやビジネスへの転換を論じるためには、産業組織論や食サービスマネジメント論、および、人々の食生活行動を分析するための行動経済学などの経済学・経営学を駆使できることが必要である。加えて、このような新しい事業には、経済学・経営学領域の理論に、健康マネジメント論や食の社会学、比較文化論などの知見を取り込み、地域コミュニティや文化などへの視野をもつことが必要である。

このように本研究科では、既存の経済学研究科・経営学研究科との連携により、食の経済活動の諸課題に取り組み、食についての複数の学術分野の知見を有し、食をめぐる経済社会の仕組みや人々の経済行動を理解し、食の経済システムを効率的に持続し、社会全体の公益にも寄与する仕組みを構築できるマネジメント能力を有した人材を育成することを目指している。このようなことから、人材育成目的を「経済学・経営学の専門的知見を用いて食に関する経済活動を研究し、実践的なマネジメント能力を備えた高度専門職業人および研究者の育成」とする。

本研究科の設置によって、既存の農学や家政学からのアプローチに加え経済学・経営学からの新たなアプローチが加わることにより、食の経済的課題の解決に関わる人材の輩出拠点が創出されるとともに、社会科学・人文科学による食に関わる研究活動が活発化し、食の研究の発展と豊富化に寄与する学術上の基盤が整備されると考える。

I. 人材育成目的

【研究科全体】

食マネジメント研究科は、経済学・経営学の専門的知見を用いて、食に関わる経済活動を研究し、実践的なマネジメント能力を備えた高度専門職業人および研究者の育成を目的とする。

【博士課程前期課程】

食に関わる多様な視点を、経済学・経営学を軸として社会実装に導入し、食に関わる経済活動をめぐる諸課題の解決へ向けて応用することができる高度専門職業人を育成する。

【博士課程後期課程】

食マネジメント研究の発展に寄与する研究活動を行い、ここで培ったマネジメント能力を用いて研究成果を社会に還元するとともに、研究倫理を有しつつ学術的手法を用いることができる研究者を育成する。

II. ディプロマ・ポリシー

【博士課程前期課程】

人材育成目的の達成に向けて、以下のとおり、修了時点で身につけている能力（教育目標）を定める。所定の単位の修得と修士論文評価基準に基づく審査の合格をもって教育目標の達成とみなし、修士（食マネジメント）を授与する。

<教育目標>

- 1) 食に関わる経済活動の諸課題の解決のために、経済学・経営学に基づくマネジメント能

力を獲得することができる。

- 2) 経済学・経営学を軸として食に関する複数の学術分野の知見をもつことができる。
- 3) 食に関わる経済活動の諸課題の解決に向けて、研究倫理を有しつつ学術的手法に基づき研究し、社会において高度に実践することができる。

【博士課程後期課程】

人材育成目的の達成に向けて、以下のとおり、修了時点で身につけている能力（教育目標）を定める。所定の単位の修得と博士論文評価基準に基づく審査の合格をもって教育目標の達成とみなし、博士（食マネジメント）を授与する。

<教育目標>

- 1) 経済学・経営学を基盤に食に関する複数の学術分野の知見を有し、学術研究の発展に貢献することができる。
- 2) 食に関する経済活動の諸課題の解決に向けて、経済学・経営学を通して培ったマネジメント能力を活用して、その成果を社会に還元することができる。
- 3) 食に関する経済活動の諸課題解決に向けて、研究倫理を有しつつ学術的手法に基づき複合的に研究できる。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

1) 食マネジメント人材の重要性

添付資料（資料 8「経済産業省 飲食関連産業の動向（FBI 2016 年第 4 四半期）」）によれば、フード・ビジネスの従業者数は 1,014 万人（2014（平成 26）年）で、内訳は、食料品工業：約 142 万人、食料品流通業：393 万人、飲食サービス業：480 万人である。民営事業所における従業者数 5,742 万人（平成 26 年総務省統計局経済センサス基礎調査）と比較すると、約 18% 程度を占める。また名目のフード・ビジネスの事業規模は 178 兆 7,800 億円に上る。

これらには金融、公務員、コンサルティングあるいは農協など、広く食を扱う業界や地域活性化への支援業務、ホテル、病院・介護、駅や空港、学校などでの飲食サービス業務、さらには業務用及び家庭用の電気・ガスの各種厨房機器事業、食器などの食関連用具生産、食の IT 関連事業そして農業生産は、含まれていない。これらを合計すると、何らかの形で食の知識を必要とする従業者数比率は 18% よりもかなり高いことが推測される。

以上より、食マネジメント研究科の養成する食マネジメント人材の需要は、広範で多彩な領域において存在していると考えられる。

2) 外部機関によるアンケート調査

食マネジメント研究科の新設に伴い、人材需要の動向など社会的なニーズを明らかにするために、外部機関による以下のアンケート調査を実施して、中立的、客観的なデータを収集し、分析を行った（資料 5 立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科修了生に対する企業採用意向調査報告書）。

(i) 博士課程前期課程における企業採用業務従事者向け調査結果に見る出口確保の見込み

- ・調査対象：マクロミルモニターに登録する全国の 20～59 歳の男女のうち、規模が 50 名以上の企業で、人事・労務に所属する採用従事者（2019（令和元）年 5 月時点）

- ・実施人数：412人
- ・調査方法：7,943人に対してインターネットにて事前調査を行い、その回答者のうち規模が50名以上の企業で、人事・労務に所属する採用従事者に対してインターネットにて本調査を実施
- ・調査期間：2019（令和元）年5月10日（金）～5月11日（土）
- ・アンケート対象者への開示情報内容：
 - 研究科専攻名称、設置の理念、養成する人材像、大学院概要、カリキュラム概要、
 - 想定進路、設置場所、学生納付金

食マネジメント研究科の概要を示した上で、本研究科の社会的必要性と、卒業生の採用意向、従業員の派遣検討意向について回答を求めた。社会的必要性としては「必要だと思う」18.7%、「どちらかといえば必要だと思う」40.8%であった。

その上で、本研究科修了生の採用意向について回答を求めたところ、「是非採用したい」10.2%、「採用を検討したい」23.3%、となり、合わせて33.5%（138名）の採用業務従事者から採用意向があるという回答が得られた。さらに、1000人以上の企業規模を持つ採用業務従事者に限定して集計すると、38.0%（58名）に本研究科への採用意向があるという結果となった。

(ii) 博士課程後期課程における企業・研究所・大学研究者向け調査結果に見る出口確保の見込み

「4) 博士課程後期課程における企業・大学・研究所向けアンケート調査結果に見る確保の見込み」(p.5)に記述した調査結果から、企業・大学・研究所において、博士学位取得への高い関心があることが分かる。今後、この部分についてエビデンスとなるアンケート調査を実施する予定である。

以上

<添付資料>

- 資料1 18専攻分野別大学院入学状況(3-1)平成30年度学校基本調査（修士課程）
- 資料2 18専攻分野別大学院入学状況(3-2)平成30年度学校基本調査（博士課程）
- 資料3 立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科 進学意向に関する調査報告書
- 資料4 食に関わる大学院構想についてのアンケート調査報告書
- 資料5 立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科修了生に対する企業採用意向調査報告書
- 資料6 立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科博士後期課程アンケート調査
- 資料7 学生納付金一覧
- 資料8 経済解析室（経済産業省） 飲食関連産業の動向（FBI：2018年）

1. 書類等の題名

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料1（1ページ）

18 専攻分野別大学院入学状況（3-1）平成30年度学校基本調査（修士課程）

2. 出典

文部科学省

3. 引用範囲

<https://www.e-stat.go.jp/stat->

[search/files?page=1&query=%E5%B0%82%E6%94%BB%E5%88%86%E9%87%8E%E5%88%A5%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E9%99%A2&sort=open_date%20desc&layout=dataset&toukei=00400001&tstat=000001011528&stat_infid=000031776665&metadata=1&data=1](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&query=%E5%B0%82%E6%94%BB%E5%88%86%E9%87%8E%E5%88%A5%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E9%99%A2&sort=open_date%20desc&layout=dataset&toukei=00400001&tstat=000001011528&stat_infid=000031776665&metadata=1&data=1)

4. その他の説明

「政府統計の総合窓口（e-Stat）」より「学校基本調査 / 平成30年度 高等教育機関〈報告書掲載集計〉 学校調査 大学・大学院」より資料をダウンロードのうえ、エクセルシート「18（3-1）」を引用

1. 書類等の題名

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料2（2ページ）

18 専攻分野別大学院入学状況（3-2）平成30年度学校基本調査（博士課程）

2. 出典

文部科学省

3. 引用範囲

[https://www.e-stat.go.jp/stat-](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&query=%E5%B0%82%E6%94%BB%E5%88%86%E9%87%8E%E5%88%A5%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E9%99%A2&sort=open_date%20desc&layout=dataset&toukei=00400001&tstat=000001011528&stat_infid=000031776665&metadata=1&data=1)

[search/files?page=1&query=%E5%B0%82%E6%94%BB%E5%88%86%E9%87%8E%E5%88%A5%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E9%99%A2&sort=open_date%20desc&layout=dataset&toukei=00400001&tstat=000001011528&stat_infid=000031776665&metadata=1&data=1](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&query=%E5%B0%82%E6%94%BB%E5%88%86%E9%87%8E%E5%88%A5%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E9%99%A2&sort=open_date%20desc&layout=dataset&toukei=00400001&tstat=000001011528&stat_infid=000031776665&metadata=1&data=1)

4. その他の説明

「政府統計の総合窓口（e-Stat）」より「学校基本調査 / 平成30年度 高等教育機関〈報告書掲載集計〉 学校調査 大学・大学院」より資料をダウンロードのうえ、エクセルシート「18（3-2）」を引用

学校法人立命館 御中

資料3

立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科
進学意向に関する調査報告書

2019年5月

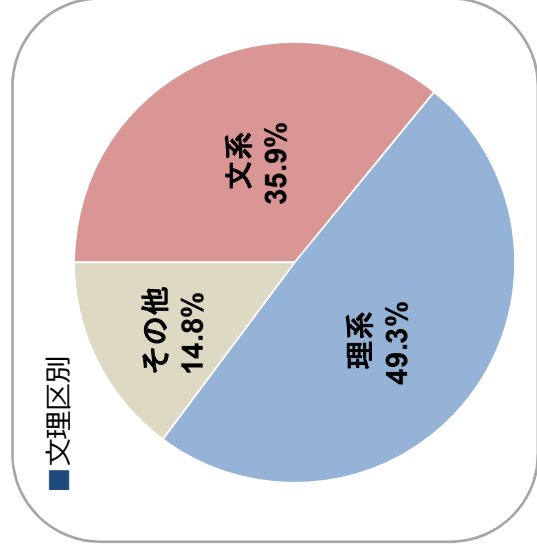
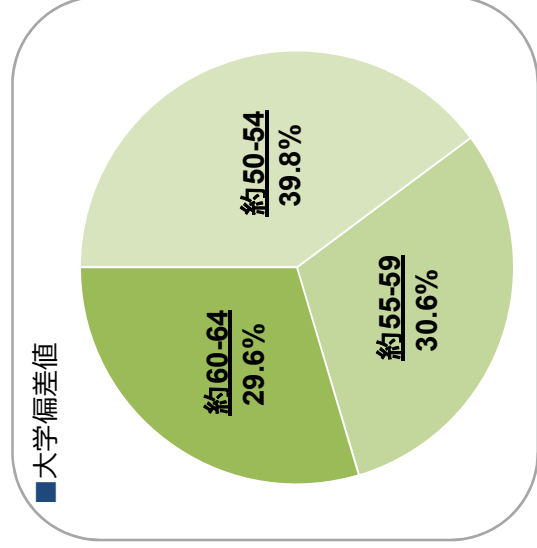
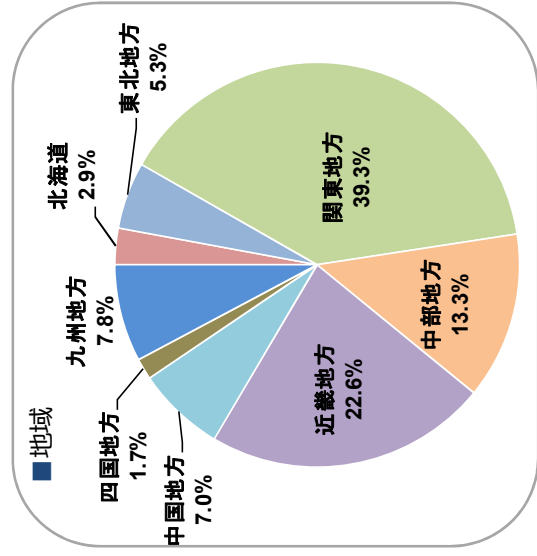
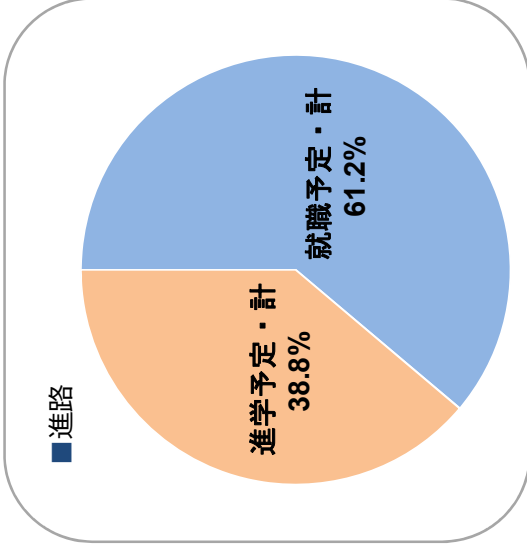
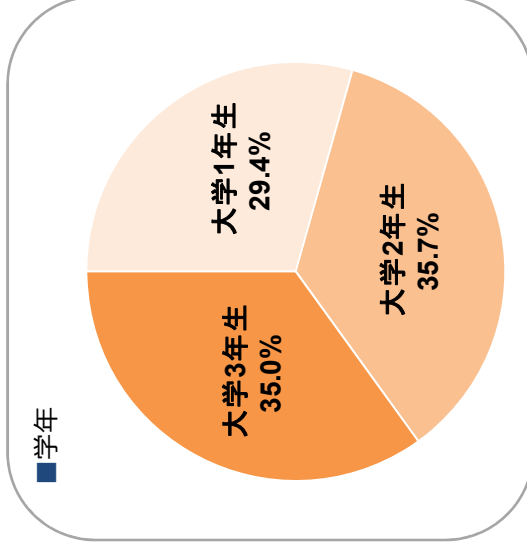
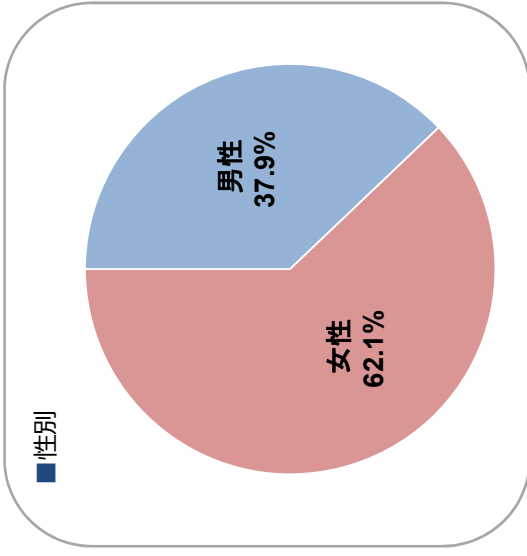
合同会社 オンサイドマーケティング

■ 調査概要

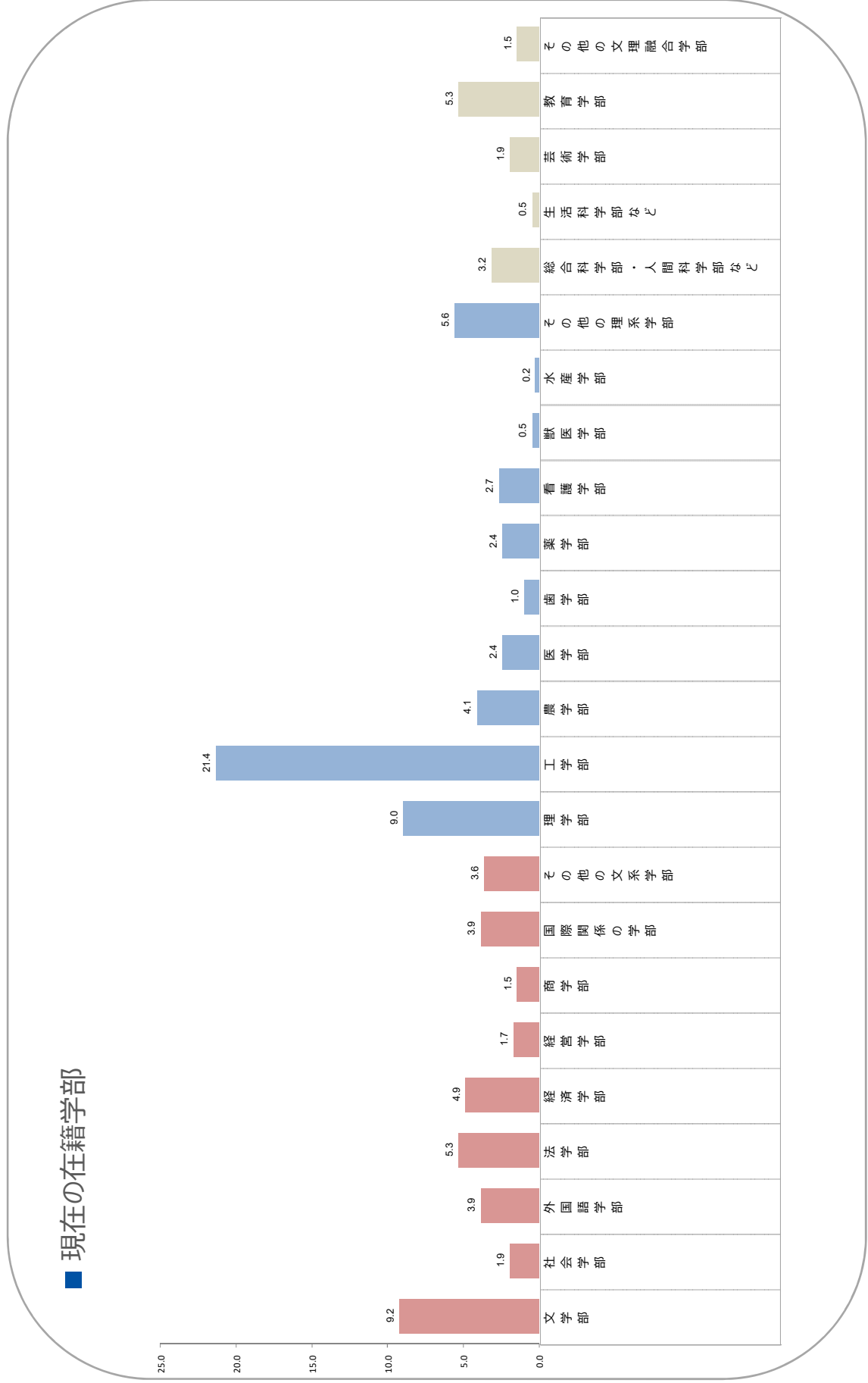
- 調査目的 : 新設する立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科に対する大学生のニーズを把握する。
①立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科は大学生の興味関心を得られるか。
②大学生は、立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科を受験・進学したいと感じるか。
- 調査対象 : マクロミルモニタ 18～22歳 男女
- 調査地域 : 全国
- 調査方法 : インターネットリサーチ
- 調査時期 : 【事前調査】 2019年5月9日 (木)～5月14日 (火)
【本調査】 2017年5月10日 (金)～5月13日 (月)
- 有効回答数 : 【事前調査】 6,485サンプル (全国 18～22歳 男女)
【本調査】 412サンプル (大学生)
- 調査実施機関 : 合同会社オンサイトマーケティング

調査対象者属性

■ 本調査対象者 (n=412) の属性①



■ 本調査対象者 (n=412) の属性②



調查結果【要約】



【総括】

立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科に対する大学生のニーズについて検証すべく、外部機関である合同会社オンサイドマーケティング（所在地：東京都三鷹市）が調査を実施した。

調査の方法は、前頁の通り2019年5月時点の大学1～3年生を対象としたインターネットリサーチによる。

【調査期間】

事前調査： 2019年5月9日（木）～5月14日（火）

本調査： 2019年5月10日（金）～5月13日（月）

【大学生からの興味】

本調査回答者412名（属性は前頁）に対して本研究科への興味を尋ねた結果、「興味が高い」、「やや興味が高い」を合わせ、**本研究科への興味を40%（163名）が示している。**

【大学生受験意向について】

本調査回答者412名に対して本研究科を受験する可能性を尋ねた結果、「候補の1つとして検討する」、「候補の1つとして検討する可能性がありそう」を合わせ、**強い検討意向を19%（79名）が示した。**
「候補の1つとして検討する可能性がわずかにありそう」まで加えた、**受験意向では51%（210名）という割合を示している。**

【大学生進学意向について】

受験意向のある回答者210名に対して、仮に合格した場合、本学部に進学する可能性を尋ねた結果、「是非進学したい」、「進学を検討したい」を合わせ、**22%（47名）が強い進学意向を示している。**

【その他】

大学院進学の際、ネックになるのは「学費」が最も高く、次に生活費と続き、経済的な問題が足かせとなる。

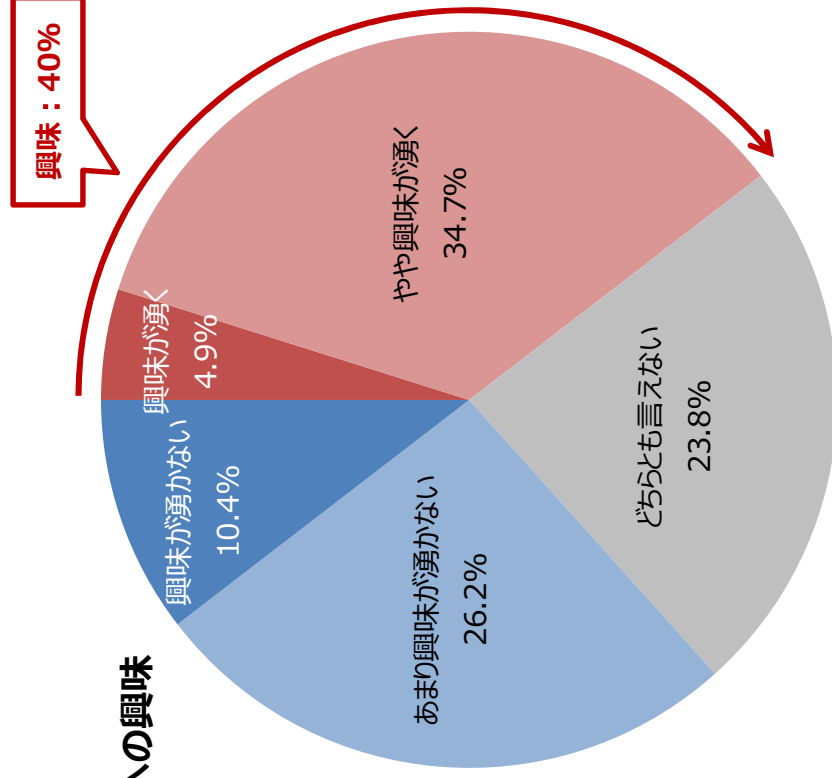
1. 立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科への興味

インターネットリサーチからみられる立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科に対する興味は、次の通りである。

[Q2]あなたは、自分の進学先を考えると、この研究科にどの程度興味を湧きますか。(n=412)

■ 立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科への興味

回答者412名（属性は前頁）全体で、「興味を湧く」、「やや興味を湧く」を合わせ、**本研究科への興味を40%（163名）**が示している。



2. 立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科への受験意向

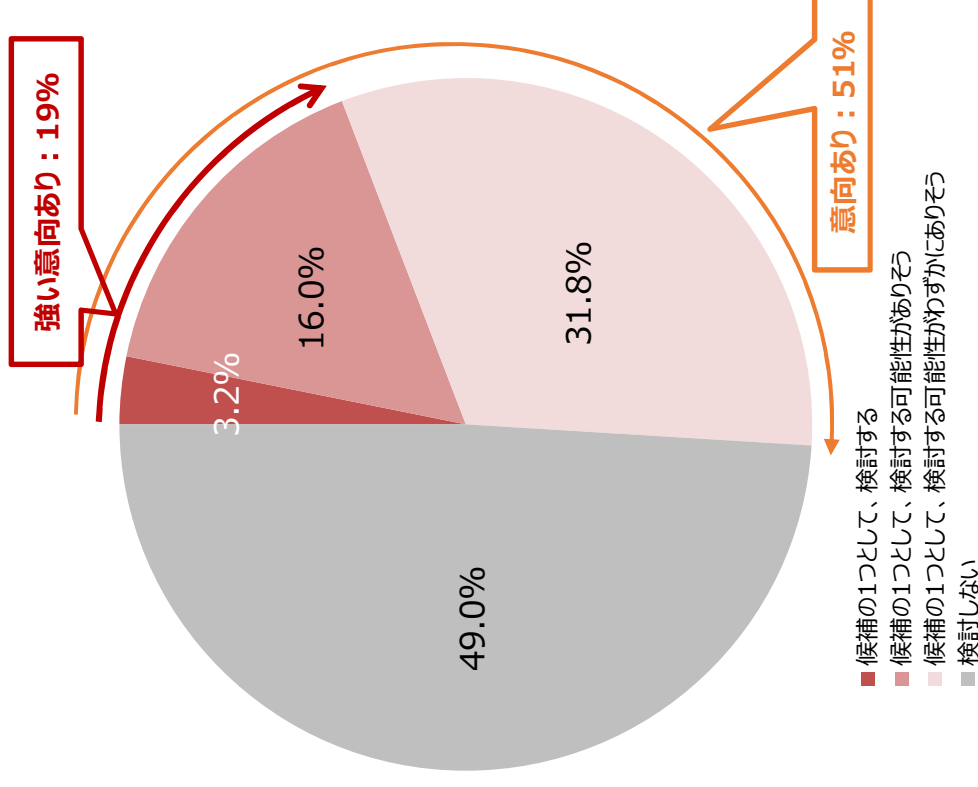
インターネットリサーチからみられる立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科への受験意向は、次の通りである。

■立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科への受験意向

回答者412名（属性は前頁）に対して本研究科を受験する可能性を尋ねた結果、「候補の1つとして検討する」、「候補の1つとして検討する可能性がありそう」という**強い検討意向を19%（79名）**が示した。

また、「候補の1つとして、検討する可能性がわずかにありそう」まで加えると、**51%（210名）**が**受験意向を示している**。

[Q3]では、ご覧いただいた研究科について、受験することを検討することはありそうですか。(n=412)



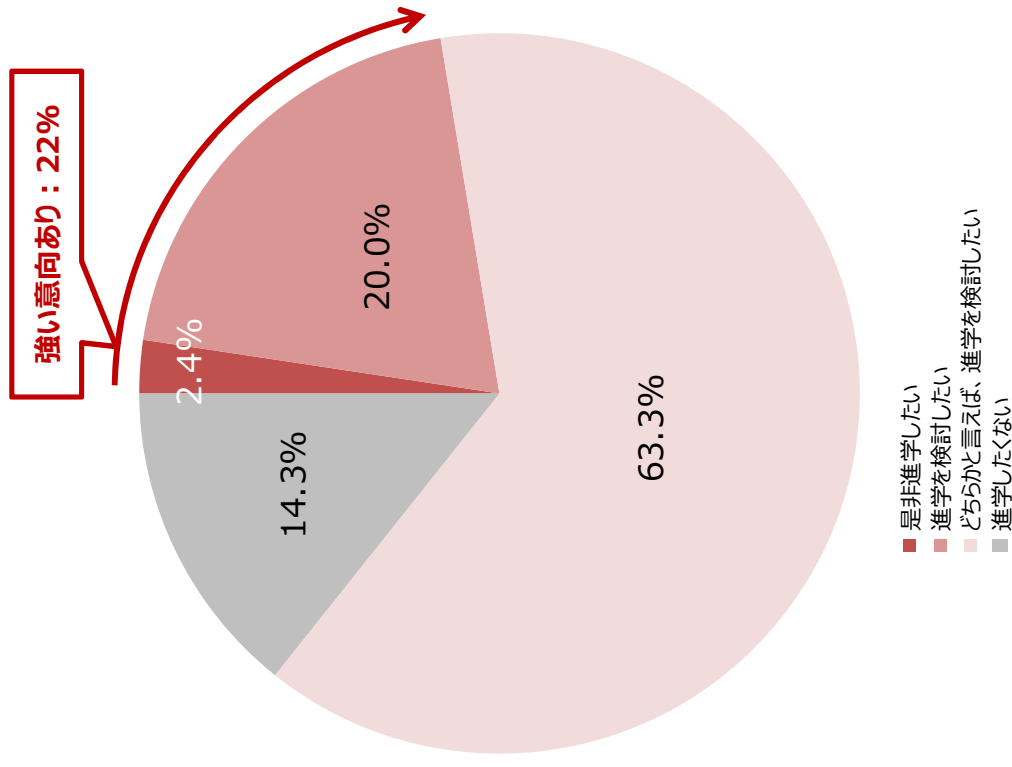
3. 立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科への進学意向

インターネットリサーチからみられる立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科への進学意向は、次の通りである。

■ 立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科への進学意向

受験意向のある回答者210名に対して合格した場合に、本学部に進学する可能性を尋ねた結果、「是非進学したい」、「進学を検討したい」という**強い意向を22%（47名）が示した。**

[Q4]ご覧いただいた学部にもし合格した場合、進学を検討しますか。(n=210)



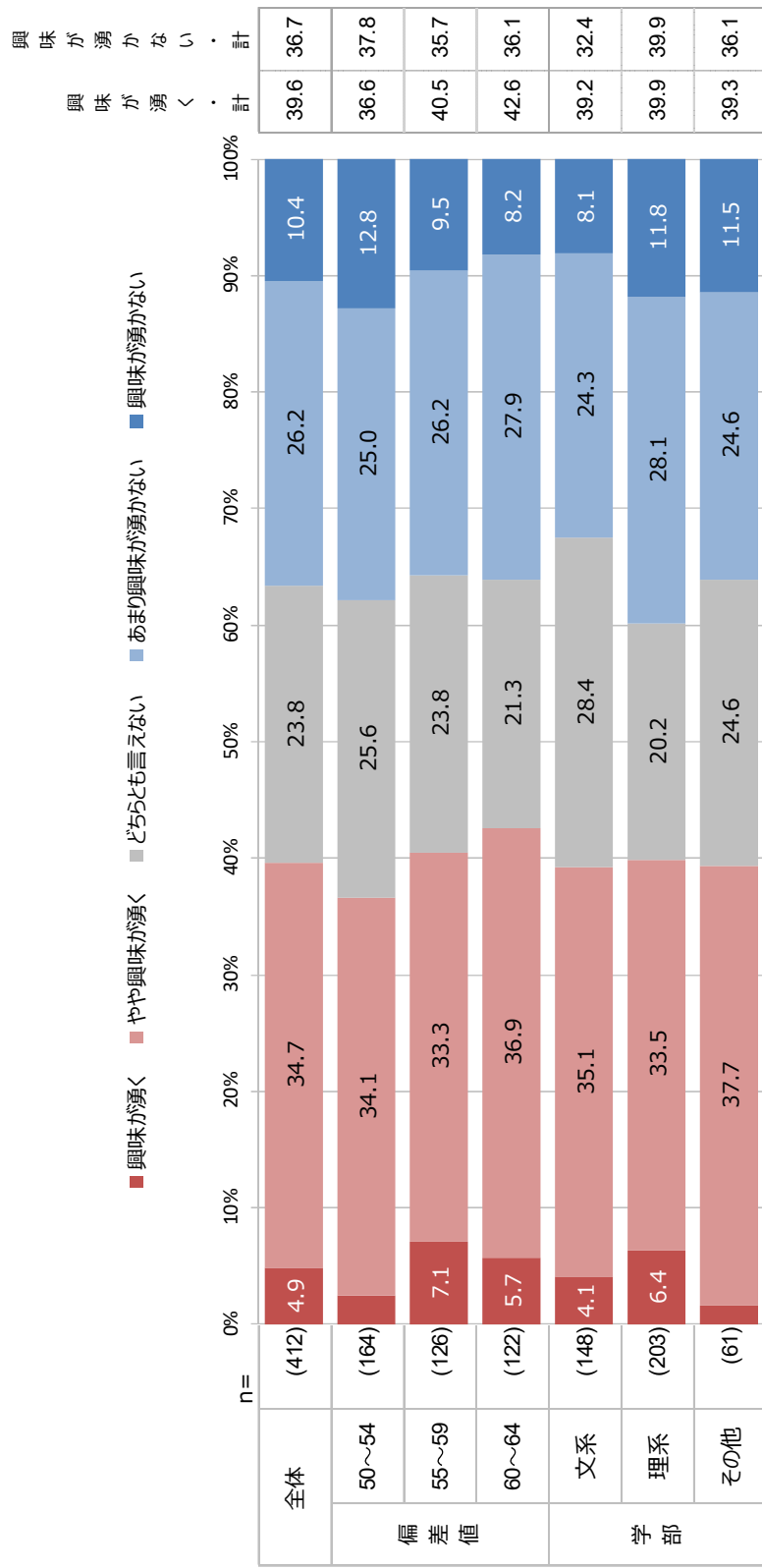
調査結果【詳細】

1. 立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科への興味

<クロス集計： 興味 x 偏差値&学部>

- 偏差値別にみると、偏差値が高いほど興味が湧くと答える人が多い。
- 学部別にみると、文系と理系ではスコアにあまり隔たりがなく、文理どちらからも興味を抱かれています。

(Q2)あなたは、自分の進学先を考えたって、この研究科にどの程度興味が湧きますか。



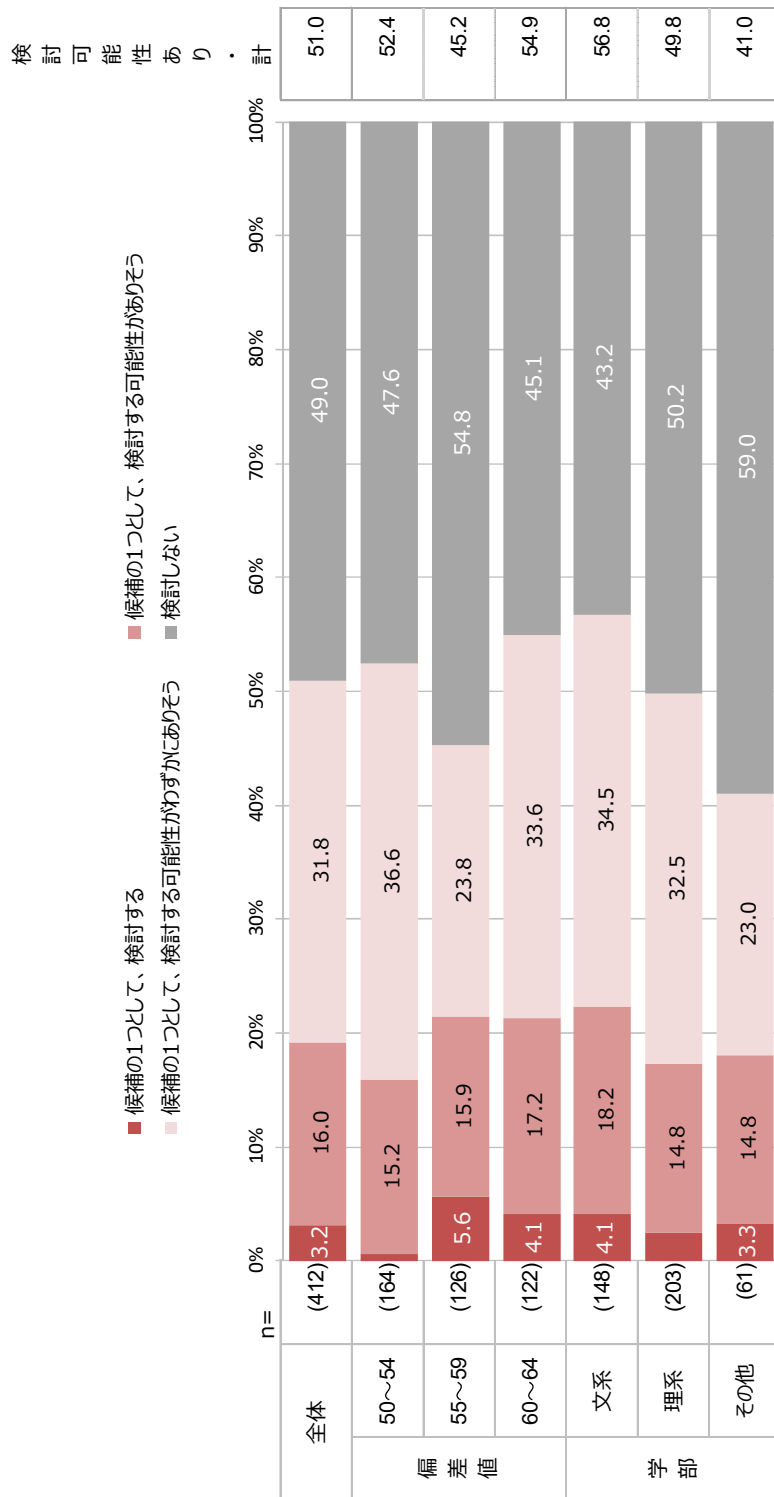
※興味は「興味が湧く」+「やや興味が湧く」+「どちらとも言えない」+「あまり興味が湧かない」+「興味が湧かない」のスコアの合計
※3%以下のスコアは非表示

2. 立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科への受験意向

<クロス集計： 受験意向 x 偏差値&学部 >

- 偏差値別にみると、TOP2ではあまりスコアに差が見られない。TOP3では偏差値「60-64」が55%で最も高い。
- 学部別にみると、文系は理系・その他に比べて“検討する可能性がある”と回答する割合が高い。

(Q3)では、ご覧いただいた研究科について、受験することを検討することはありそうですか。

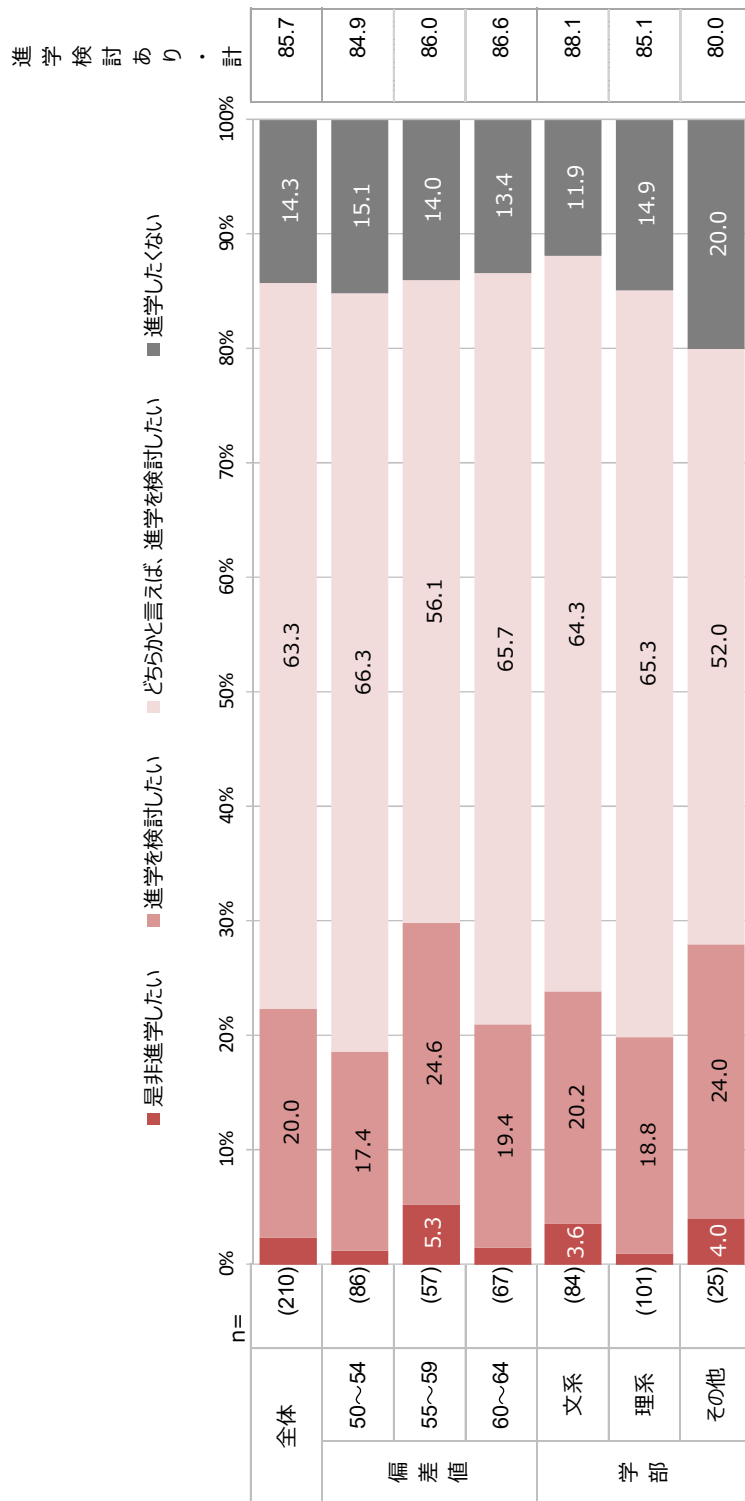


3. 立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科への進学意向

<クロス集計： 進学意向 x 偏差値 & 学部>

- ・ 偏差値別にみると、「進学検討あり・計」のスコアに大きな差は見られない。
- ・ 学部別にみると、【受験意向】と同様に、文系の方が理系・その他に比べて進学を検討するスコアが高い。

(Q4)ご覧いただいた研究科にもし合格した場合、進学を検討しますか。

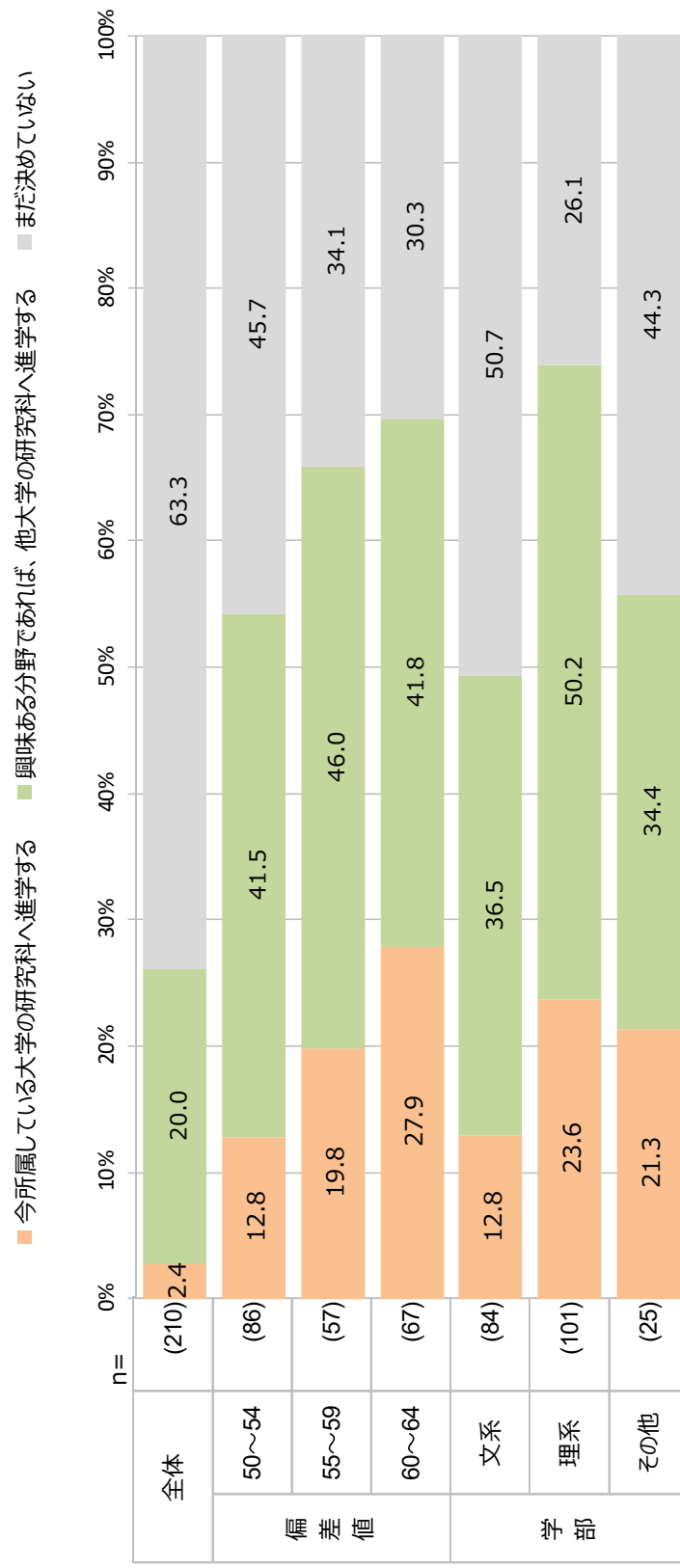


4. 大学院の研究科について

<クロス集計： 大学院研究科 x 偏差値&学部>

- 偏差値別にみると、偏差値が高い人ほど現在所属している大学の研究科へ進学する意向が高い。
- 学部別にみると、文系に比べて大学院進学率の高い理系において、「所属する大学の研究科へ進学する」割合が高い点が特徴的。

(Q5)大学院への進学について、どのように考えていますか。もっともあてはまるものをお選びください。

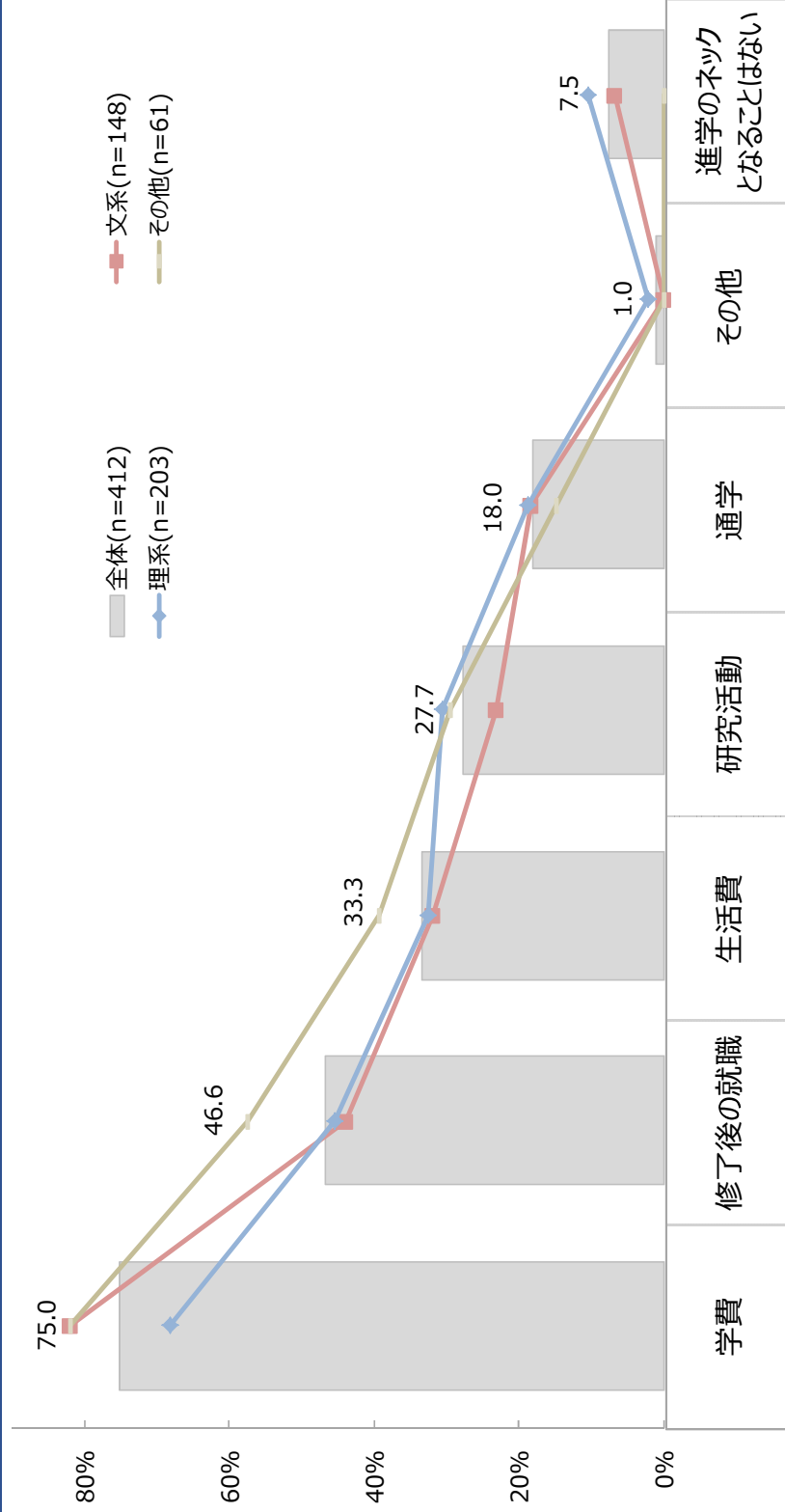


5. 大学院進学を検討する際にネックになる点

<クロス集計： 大学院研究科 x 学部>

- ・ 「学費」が75%と最も高く、次いで「修了後の就職」（47%）、「生活費」（33%）と続く。
- ・ 学部別にみると、理系では「学費」がネックになりづらく、文系では「研究活動」がネックとなりづらい傾向が窺える。

(Q6)大学院に進学を検討する際に大学院への進学のネックとなることがあればお知らせください。(いくつでも)



付録

■ 調査票 <事前調査>

あなたご自身に関するアンケート

下記アンケートにご協力をお願いいたします。

当アンケートの回答者の皆様へお願い

マクロミルモニタの皆様にはモニタ規約にて「調査」についての守秘義務の徹底をお願いしております。

当アンケートの内容および当アンケートで知り得た情報については、決して第三者に口外しないようお願いいたします。ご協力をお願いします。

Q1 現在のあなたにあってはまるものをお選びください。

【必須入力】

- 1. 中学生
- 2. 高校生
- 3. 高専生
- 4. 大学1年生
- 5. 大学2年生
- 6. 大学3年生
- 7. 大学4年生
- 8. 大学院生
- 9. 短大生
- 10. 専門学校生
- 11. 社会人
- 12. 上記以外

Q2 あなたが通っている大学の偏差値をお答えください。

※分からぬ方は、可能であれば周囲の人にお聞きください。

※記入しないで構いません。

【必須入力】

- 1. 40未満
- 2. 40-44<51
- 3. 45-49<51
- 4. 50-54<51
- 5. 55-59<51
- 6. 60-64<51
- 7. 65-70<51
- 8. 71以上

Q3 あなたは、大学を卒業後のことをどのように考えていますか。

もっともあてはまるものをお選びください。

【必須入力】

- 1. 就職する予定
- 2. どちらかといえば、就職する予定
- 3. どちらかといえば、大学院へ進学する予定
- 4. 大学院へ進学する予定
- 5. 今は就職するつもりだが、就職後に大学院へ進学する予定

■ 調査票 <事前調査>

Q4

あなたが在籍している学部として、あてはまるものをお選びください。

【必須入力】

【文系の学部】

- 1. 文学部
- 2. 社会学部
- 3. 外国語学部
- 4. 法学部
- 5. 経済学部
- 6. 経営学部
- 7. 商学部
- 8. 国際関係の学部
- 9. その他の文系学部

【理系の学部】

- 10. 理学部
- 11. 工学部
- 12. 農学部
- 13. 医学部
- 14. 歯学部
- 15. 薬学部
- 16. 看護学部
- 17. 獣医学部
- 18. 水産学部
- 19. その他の理系学部

【文理を問わない学部】

- 20. 総合科学部・人間科学部など
- 21. 生活科学部など
- 22. 芸術学部
- 23. 教育学部
- 24. その他の文理融合学部
- 25. その他
- 26. わからず、覚えていない

■ 調査票 <本調査>

あなたご自身に関するアンケート

下記アンケートにご協力をお願いします。

当アンケートの回答者の皆様へお願い

マクドナルドモニタの皆様にはモニタ規約にて「調査」についての守秘義務の徹底をお願いします。

当アンケートの内容および当アンケートで知り得た情報については、決して第三者に口外しないよう（掲示板やホームページへの書き込みを含む）、ご協力をお願いします。

【調査内容についての守秘義務遵守のお願い】

当アンケートの内容および当アンケートで知り得た情報は、決して第三者に開示または漏えいしないようお願いいたします。
また、調査で提示された内容や画像等を、掲示板やホームページへ書き込む行為も固く禁止しております。

くれぐれもそのような行為の無いよう、改めてお願い申し上げます。

Q1 上記の内容にご同意いただき、本アンケートにご参加いただけますか。

【必須入力】

1. 同意する
 2. 同意しない

◆まずは、下記リフレットをご一読ください。

◆一通りご覧いただいた「研究科」について、お伺いいたします。

▼ 以下のボタンをクリックすると別画面で画像表示されます。▼

別画面で表示される画像全体をよくご覧ください。

※複数、複製は固く禁じます。

リフレットを表示

Q2 あなたは、自分の進学先を考えるにあたって、

この研究科にどの程度興味がありますか。

※実際に進学したと思うかどうかは問わず、まずは興味があるかを考えてください。

【必須入力】

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
1	2	3	4	5	
興味が薄く	やや興味が薄く	どちらとも言えない	あまり興味が湧かない	興味が湧かない	

■ 調査票 <本調査>

Q3 では、ご購入いただいた研究料について、**受験することを検討する**ことはありそうですか。
【必須入力】

- 1. 候補の1つとして、検討する
- 2. 候補の1つとして、検討する可能性がありそう
- 3. 候補の1つとして、検討する可能性がわずかにありそう
- 4. 検討しない

Q4 ご購入いただいた研究料にも合致した場合、**進学を検討**しますか。
【必須入力】

- 1. 是非進学したい
- 2. 進学を検討したい
- 3. どちらかと言えば、進学を検討したい
- 4. 進学したくない

■ 調査票 <本調査>

Q5 大学院への進学について、どのように考えていますか。
もっともあてはまるものをお選びください。

【必須入力】

- 1. 今所属している大学の研究科へ進学する
- 2. 興味ある分野であれば、他大学の研究科へ進学する
- 3. まだ決めていない

Q6 入学前に進学を検討する際に
大学院への**進学のネック**となる**こと**があればお知らせください。(1つでも)

【必須入力】

- 1. 学費
- 2. 生活費
- 3. 研究活動
- 4. 修了後の就職
- 5. 通学
- 6. その他
- 7. 進学のネックとなることはない

大学院構想の概要

設置の理念

立命館大学食マネジメント学部は、マネジメント領域を中心に、カルチャー、テクノロジー領域も含め、食を多様な面から総合的に学ぶことができる学部として2018年4月に開設されました。今後の教育研究の発展に向けて、この学部を基盤とした大学院研究科の設置について、検討を進めています。設置を検討している新しい研究科は、食マネジメント学部のコンセプトを引き継いで教学内容を高度化・深化させるとともに、食科学(*)の教育研究を進展させる拠点としての役割を担います。本研究科は、同学部の卒業生や、食の研究・発展的学習に深い関心を抱く本学部以外の卒業生、そして現在食に関わっている社会人等を受け入れます。

本研究科は、食科学を、総合的かつ文理総合の視点から発展させるべく、これまで各専門分野に分断され、個々に発展してきた食の研究を学術的に総合し俯瞰することを図ります。食の持つ本来の多面性を統合的に研究することで、食科学についての基礎的研究を蓄積すると共に、現代社会の抱える食に係る重要課題の解決策を提示しうる研究を進め、食科学に関する研究の到達点を踏まえた教育を行うことによって、人類の未来を切り拓く人材を育成することを目指します。

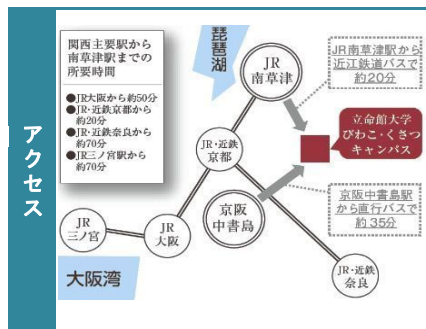
(*)食科学の学びの体系とは、食との関わりのなかで、「人間の生活環境としての社会を系統的・実証的に分析する社会科学」、「人間の生活の営みや文化活動を分析し理解する人文科学」、「食材から体内への取り込みと認知までの一連の科学的な仕組みを理解する自然科学」という三つの視点からの研究成果を視野に捉え、具体的に社会の発展へ還元する実践を可能とするための総合的な体系です。

養成する人材像

(博士課程前期課程)
本研究科は、食と社会の関係を、経済学・経営学を中心に総合的に研究し、その知識を実践において応用する際に指導的役割を果たすとともに、高度なマネジメント能力を有する専門職業人を育成します。

大学院概要 (予定)

名称：立命館大学大学院食マネジメント研究科または食総合研究科
開設時期：2021年4月1日
開設場所：びわこ・くさつキャンパス(滋賀県草津市野路東1-1-1)
入学定員：博士課程前期課程 20名 博士課程後期課程 3名
収容定員：博士課程前期課程 40名 博士課程後期課程 9名



特長

- **フードイノベーションを学ぶ**
新製品、経営革新、新規事業、消費者行動、人材育成(経済活性化、生産性の向上)など
- **地域・サステナビリティを学ぶ**
持続可能な地域振興社会づくり(農・漁業、資源、コミュニティ、食品ロス、食文化)
- **福祉・健康コーディネーションを学ぶ**
健康管理ができる地域社会づくり(高齢化・少子化時代の高齢者、児童)
- **多文化共生を学ぶ**
異なる宗教や文化に対応した社会・企業づくり(外国人の労働者・訪問者の増加)

など

カリキュラム

共通基礎科目

- 統計学特論
- ミクロ経済学特論
- 経営学特論
- フードカルチャー特論
- フードテクノロジー特論
- など

食総合実践特論Ⅰ・Ⅱ、食総合演習Ⅰ・Ⅱ など

研究演習Ⅰ～Ⅳ

展開科目

フードカルチャー領域

食の地域研究 比較食文化特論 フードクリエイク特論 食の歴史学特論 異文化と食特論 食の社会学特論 など

フードマネジメント領域

マクロ経済学特論 ファイナンス特論 国際経済学特論 ビジネスエコノミクス特論 アグリエコノミクス特論 行動経済学特論マーケティング特論 経営戦略特論 会計学特論 サービスマネジメント特論 経営工学特論 データ解析特論 など

フードテクノロジー領域

認知科学特論 健康・栄養学特論 食環境学特論 官能評価学特論 食品機能科学特論 食品安全学特論 など

修士学位論文

博士前期課程内容 (予定)

想定進路

食関連ビジネスの付加価値創出、国・地域振興の担い手へ

- ・分野：学術研究・リサーチ、食品関連製造業、流通、小売、運輸、サービス業、医療福祉、公務、農業・漁業、情報産業 等
- ・職種：開発・研究職、マーケター、リサーチャー、バイヤー、コンサルタント、行政職、経営者、スーパーバイザー、プロジェクトマネジャー、ジャーナリスト、進学 等

学費

大学名/研究科名	初年次納付金
立命館大学大学院食マネジメント研究科または食総合研究科	1,100,000 円程度
宮城大学大学院食産業学専攻	1,099,800 円
北海道大学大学院国際食資源学院国際食資源学専攻	817,800 円
龍谷大学大学院農学研究科食農科学専攻	1,154,600 円

※立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科の学費は博士前期課程のもので、予定です。

※他大学の学費は各大学ホームページ掲載情報です(2019年4月時点)。

※いずれの大学も諸会費を含みません。

※ 2019年4月19日時点の構想内容です(今後変更となる場合があります)。

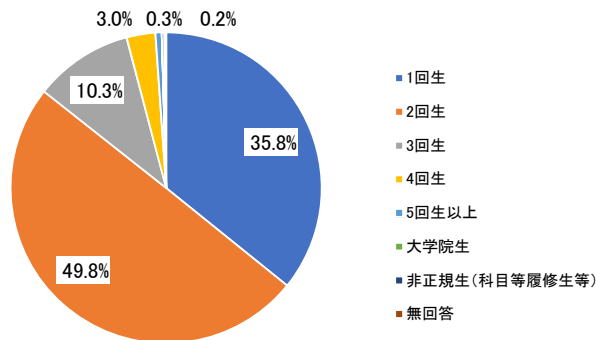
食に関わる大学院構想につい
てのアンケート

集計報告書_0版

回答者について

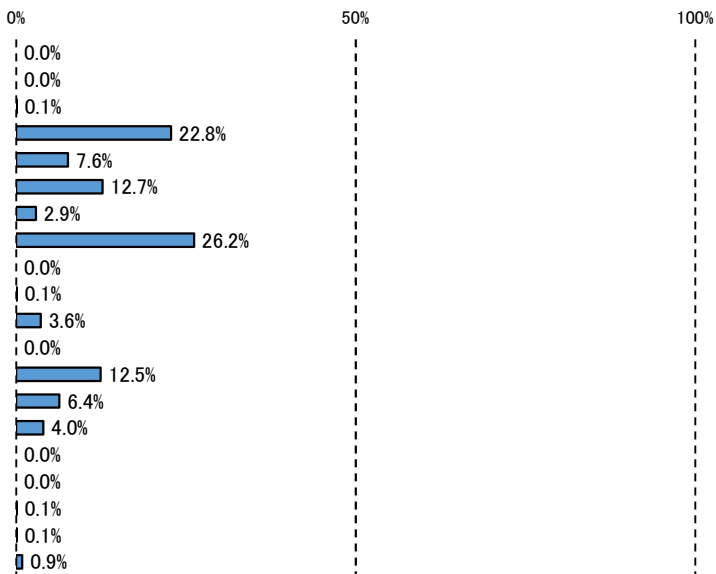
Q1 現在のあなたの回生をお選びください。

回答	比率
1回生	394 35.8%
2回生	548 49.8%
3回生	113 10.3%
4回生	33 3.0%
5回生以上	7 0.6%
大学院生	0 0.0%
非正規生(科目等履修生等)	3 0.3%
無回答	2 0.2%
合計	1,100



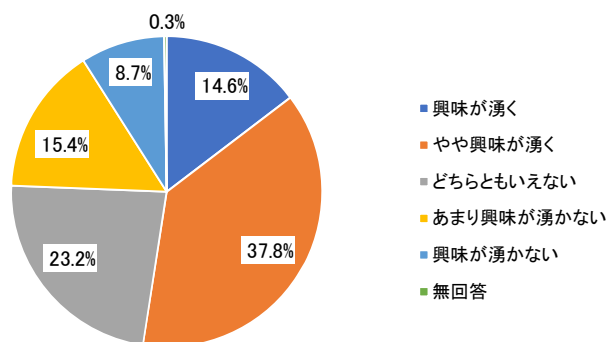
Q2 あなたの所属学部をお選びください。

回答	比率
法学部	0 0.0%
産業社会学部	0 0.0%
国際関係学部	1 0.1%
文学部	251 22.8%
映像学部	84 7.6%
経済学部	140 12.7%
スポーツ健康学部	32 2.9%
食マネジメント学部	288 26.2%
理工学部	0 0.0%
情報理工学部	1 0.1%
生命科学部	40 3.6%
薬学部	0 0.0%
経営学部	137 12.5%
政策科学部	70 6.4%
総合心理学部	44 4.0%
グローバル教養学部	0 0.0%
アジア太平洋学部	0 0.0%
国際経営学部	1 0.1%
その他	1 0.1%
無回答	10 0.9%
合計	1,100



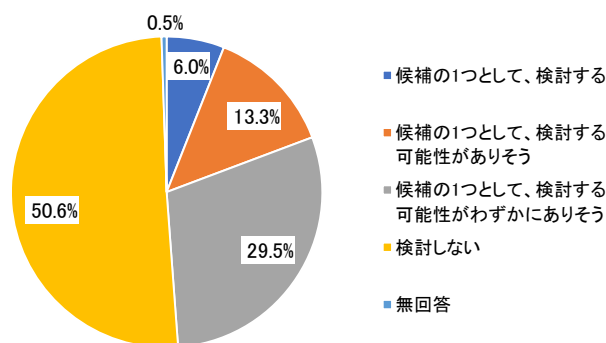
Q3 あなたは、自分の進学先を考えるにあたって、ご覧いただいた研究科についてどの程度興味が湧きますか。※実際に進学したいと思うかどうかは問わず、まずは興味があるかを考えてください。

回答	比率
興味が湧く	161 14.6%
やや興味が湧く	416 37.8%
どちらともいえない	255 23.2%
あまり興味が湧かない	169 15.4%
興味が湧かない	96 8.7%
無回答	3 0.3%
合計	1,100



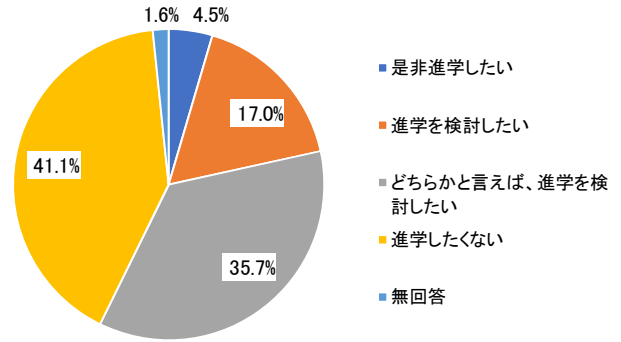
Q4 ご覧いただいた研究科について、受験を検討することはありそうですか。

回答	比率
候補の1つとして、検討する	66 6.0%
候補の1つとして、検討する可能性がありそう	146 13.3%
候補の1つとして、検討する可能性がわずかにありそう	325 29.5%
検討しない	557 50.6%
無回答	6 0.5%
合計	1,100



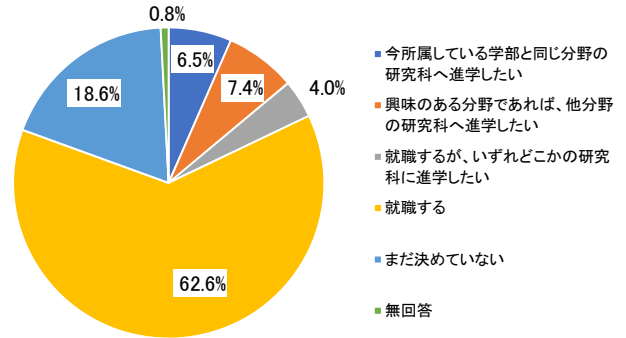
Q5 ご覧いただいた研究科にもし合格した場合、進学を検討しますか。

	回答	比率
是非進学したい	50	4.5
進学を検討したい	187	17.0
どちらかと言えば、進学を検討したい	393	35.7
進学したくない	452	41.1
無回答	18	1.6
合計	1,100	



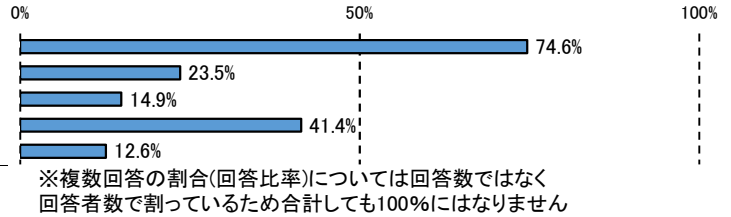
Q6 あなたは、大学を卒業した後のことをどのように考えていますか。もっともあてはまるものを1つお選びください。

	回答	比率
今所属している学部と同じ分野の研究科へ進学したい	72	6.5
興味のある分野であれば、他分野の研究科へ進学したい	81	7.4
就職するが、いずれどこかの研究科に進学したい	44	4.0
就職する	689	62.6
まだ決めていない	205	18.6
無回答	9	0.8
合計	1,100	



Q7 大学院に進学を検討する際に進学の障害となることがあれば、いくつでも選んでください。

	回答	比率
学費	821	74.6
生活費	259	23.5
研究活動	164	14.9
修了後の就職	455	41.4
通学	139	12.6
合計	1,838	
合計回答者数	1,100	



食に関わる大学院構想についてのアンケート

(仮称:立命館大学食マネジメント研究科または立命館大学食総合研究科)

以下は裏面の「大学院構想の概要」の概要をご覧ください、お答えください。

あてはまる回答の番号を○で囲んでください。

- Q1 現在のあなたの回生をお選びください。
- 1 1回生
 - 2 2回生
 - 3 3回生
 - 4 4回生
 - 5 5回生以上
 - 6 大学院生
 - 7 非正規生(科目等履修生等)
- Q2 あなたの所属学部をお選びください。
- | | |
|-------------|--------------|
| 1 法学部 | 11 生命科学部 |
| 2 産業社会学部 | 12 薬学部 |
| 3 国際関係学部 | 13 経営学部 |
| 4 文学部 | 14 政策科学部 |
| 5 映像学部 | 15 総合心理学部 |
| 6 経済学部 | 16 グローバル教養学部 |
| 7 スポーツ健康学部 | 17 アジア太平洋学部 |
| 8 食マネジメント学部 | 18 国際経営学部 |
| 9 理工学部 | 19 その他 |
| 10 情報理工学部 | |
- Q3 あなたは、自分の進学先を考えるにあたって、ご覧いただいた研究科についてどの程度興味が湧きますか。
※実際に進学したいと思うかどうかは問わず、まずは興味があるかを考えてください。
- 1 興味が湧く
 - 2 やや興味が湧く
 - 3 どちらともいえない
 - 4 あまり興味が湧かない
 - 5 興味が湧かない
- Q4 ご覧いただいた研究科について、受験を検討することはありそうですか。
- 1 候補の1つとして、検討する
 - 2 候補の1つとして、検討する可能性がありそう
 - 3 候補の1つとして、検討する可能性がわずかにありそう
 - 4 検討しない
- Q5 ご覧いただいた研究科にもし合格した場合、進学を検討しますか。
- 1 是非進学したい
 - 2 進学を検討したい
 - 3 どちらかと言えば、進学を検討したい
 - 4 進学したくない
- Q6 あなたは、大学を卒業した後のことをどのように考えていますか。もっともあてはまるものを1つお選びください。
- 1 今所属している学部と同じ分野の研究科へ進学したい
 - 2 興味のある分野であれば、他分野の研究科へ進学したい
 - 3 就職するが、いずれどこかの研究科に進学したい
 - 4 就職する
 - 5 まだ決めていない
- Q7 大学院に進学を検討する際に進学の障害となることがあれば、いくつでも選んでください。
- 1 学費
 - 2 生活費
 - 3 研究活動
 - 4 修了後の就職
 - 5 通学

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

学校法人立命館 御中

資料5

立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科
修了生に対する企業採用意向

調査報告書

2019年5月

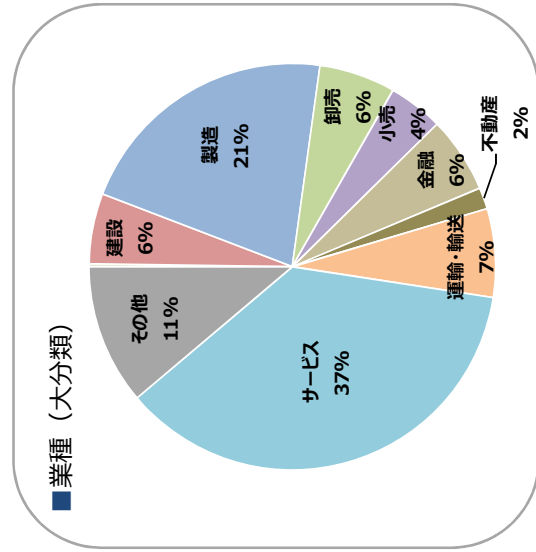
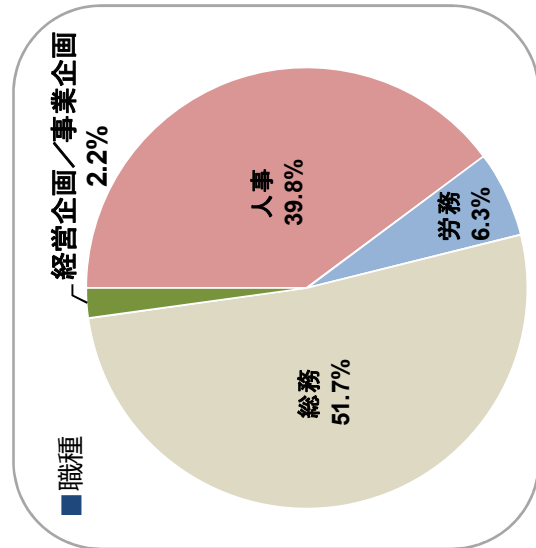
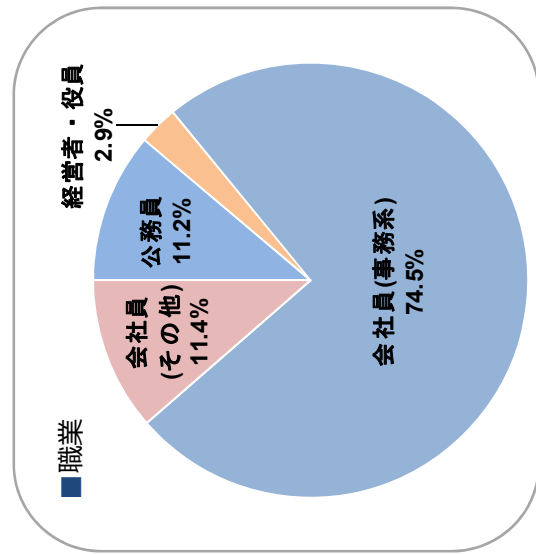
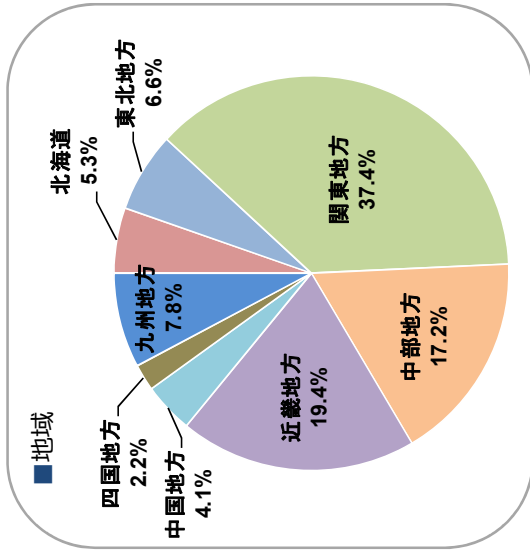
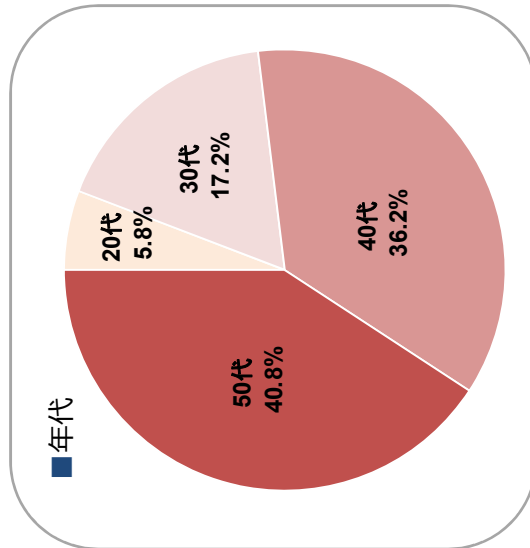
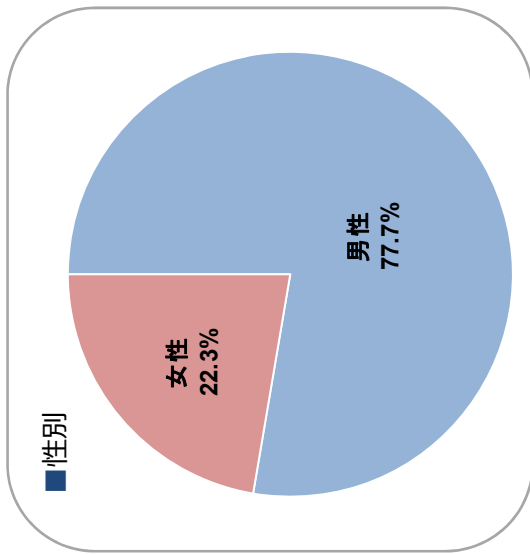
合同会社 オンサイドマーケティング

■ 調査概要

- 調査目的 : 新設する立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科に対する企業側の必要性を把握する。
①食マネジメント研究科または食総合研究科は企業から必要だと感じられるか。
②食マネジメント研究科または食総合研究科出身者を企業は採用したいと感じるか。
- 調査対象 : マクロミルモニタ 20～59歳 男女
- 調査地域 : 全国
- 調査方法 : インターネットリサーチ
- 調査時期 : 【事前調査】 2019年5月9日(木)～5月10日(金)
【本調査】 2019年5月10日(金)～5月11日(土)
- 有効回答数 : 【事前調査】 7,943サンプル (全国 20～59歳 男女)
【本調査】 412サンプル
(規模が50名以上の企業で、人事・労務に所属する採用従事者)
- 調査実施機関 : 合同会社オンサイドマーケティング

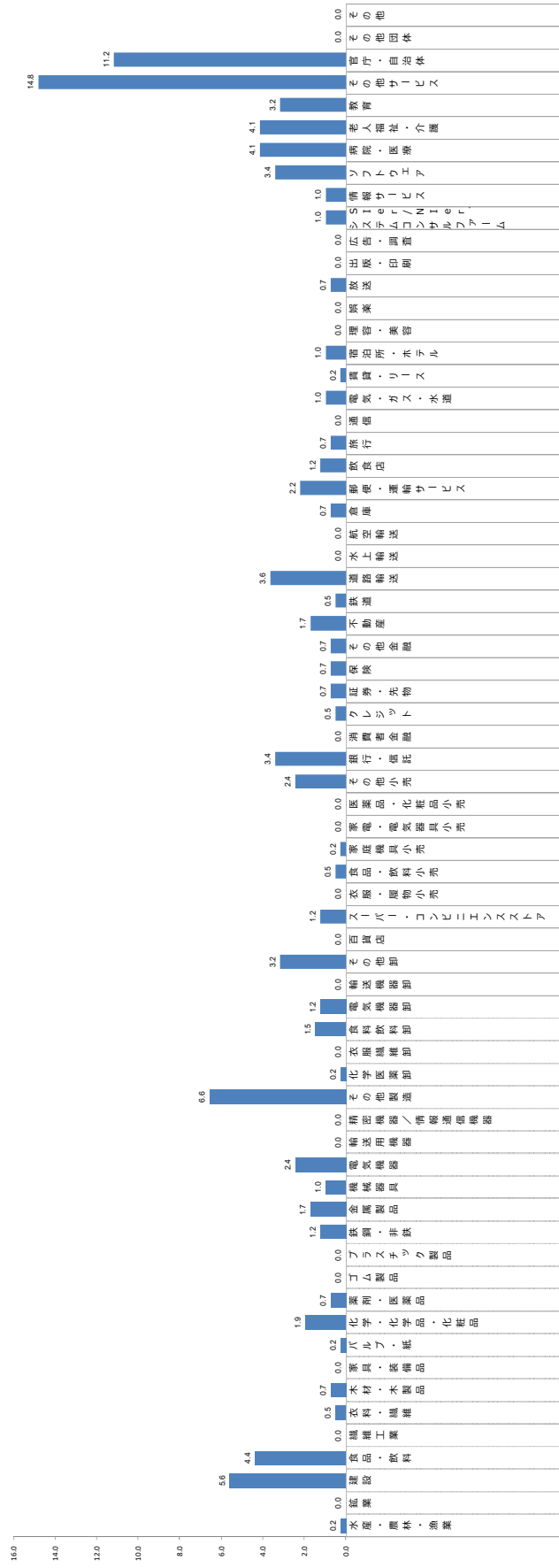
調査対象者属性

■ 本調査対象者 (n=412) の属性①

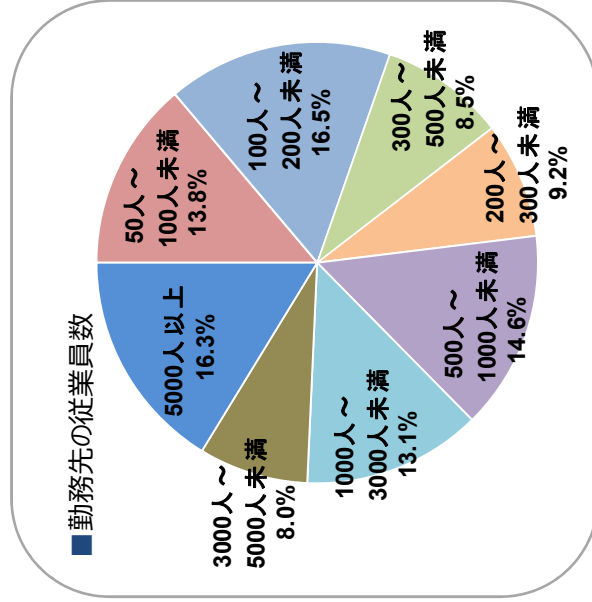
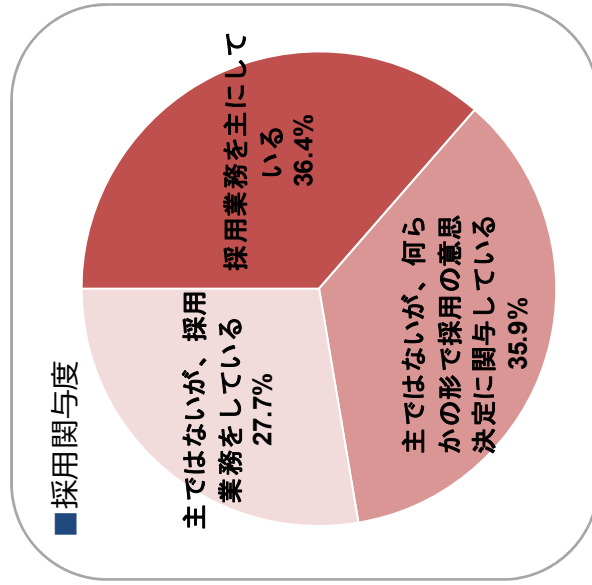


■ 本調査対象者 (n=412) の属性②

■ 業種 (中分類)
 ※全体に対するパーセンテージをグラフ表示

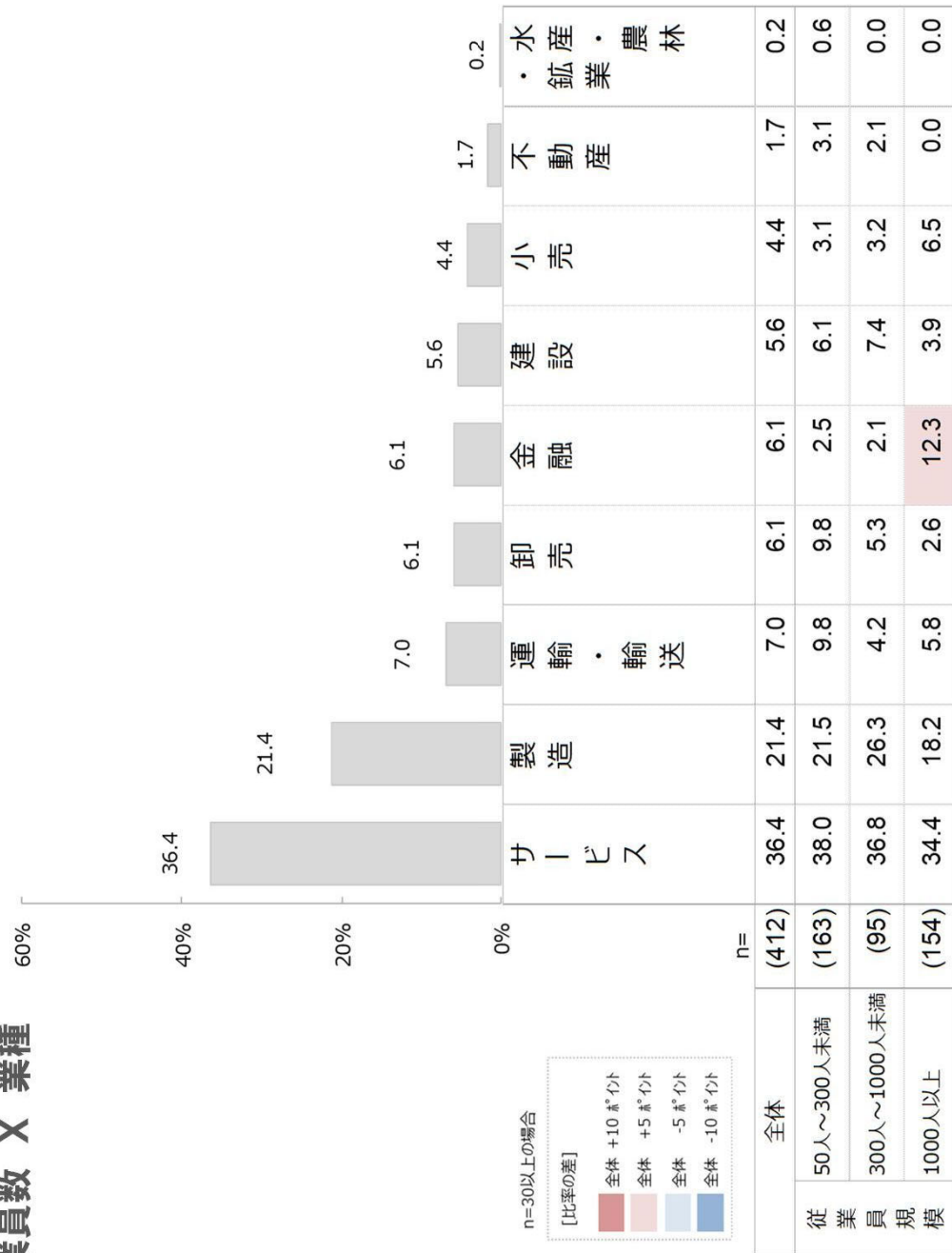


■ 本調査対象者 (n=412) の属性③



■本調査対象者 (n=412) の属性④

■従業員数 X 業種



調査結果【要約】

【総括】

食マネジメント研究科または食総合研究科に対する社会的必要性、また修了生に対する採用意向について検証すべく、外部機関である、合同会社オンサイドマーケティング(所在地:東京都三鷹市)が調査を実施した。

調査の方法は、前頁の通り規模が50名以上の企業で、人事・総務に所属する採用担当者を対象としたインターネットリサーチによる。調査期間について、

事前調査: 2019年5月9日(木)～5月10日(金)

本調査: 2019年5月10日(金)～5月11日(土)に行った。

【社会的必要性について】

本調査回答者412名(属性は前頁)のうち、本研究科の社会的必要性について「必要だと思う」、「どちらかといえば必要だと思う」が**過半数の60%(245名)**。また、1000人以上の企業規模を持つ採用担当者(154名)に限定して集計すると、68%(105名)が本研究科の設置を必要としている。ここから**大学食マネジメント研究科または立命館大学食総合研究科の社会的必要性は認められている**といえる。

【修了生の採用意向について】

食マネジメント研究科または食総合研究科を修了した学生を採用する可能性を尋ねた結果、「是非採用したい」、「採用を検討したい」を合わせ、本研究科について**34%(138名)が必要と考えている**。

さらに、1000人以上の企業規模を持つ採用担当者に限定して集計すると、38%(58名)が本研究科の設置を必要としている。

よって、**食マネジメント研究科または食総合研究科修了生の社会的採用意向は高い**といえる。

【総括】

【食マネジメント研究科または食総合研究科への派遣検討について】

本調査回答者412名(属性は前頁)のうち、本研究科への従業員派遣について「是非派遣したい」、「派遣を検討したい」、「条件さえ合えば派遣を検討したい」を合わせ、**過半数の54%(222名)**の採用担当者から派遣検討意向があるという回答が得られた。

また、1000人以上の企業規模を持つ採用担当者(154名)に限定して集計すると、62%(95名)に本研究科への派遣検討意向が窺える結果となった。

ここから、社会的に**食マネジメント研究科または食総合研究科へ従業員を派遣することに対して社会的な需要が存在する**ものと考えられる。

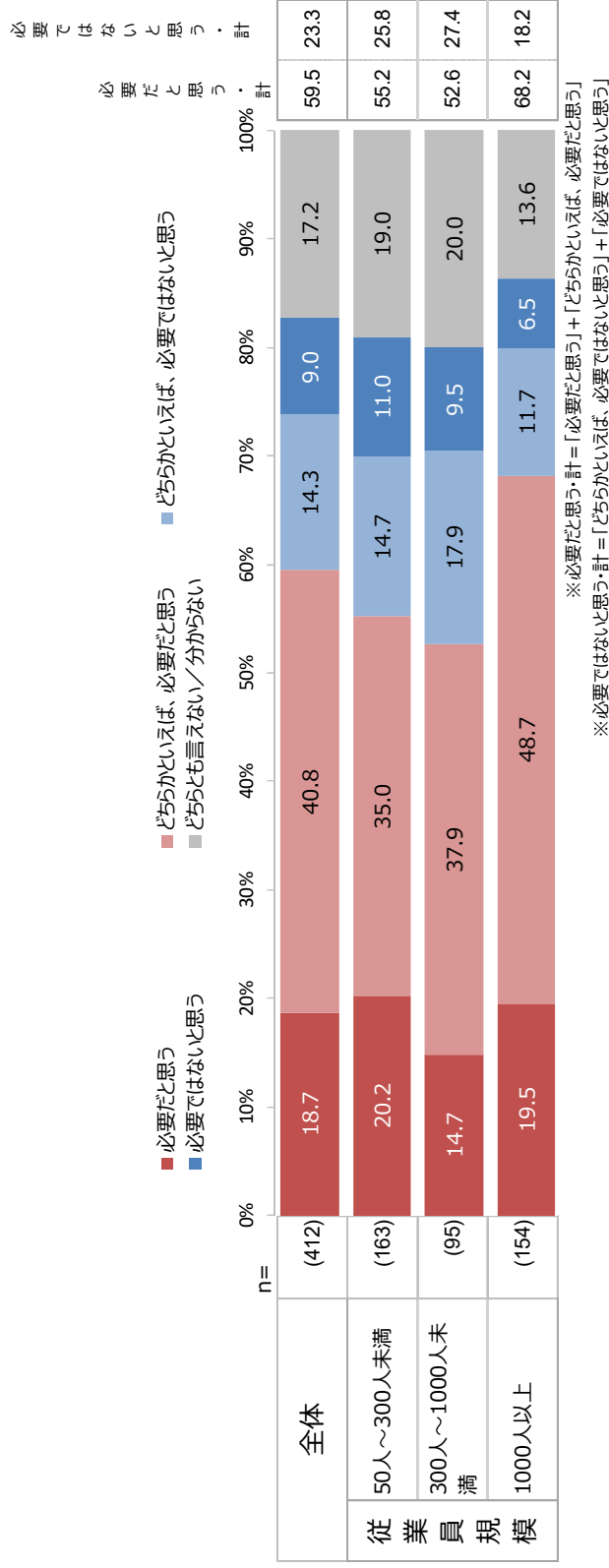
1. 食マネジメント研究科または食総合研究科の社会的必要性

インターネットリサーチからみられる食マネジメント研究科または食総合研究科に対する社会的必要性は、次の通りである。

■ 社会的必要性について

回答者412名（属性は前頁）全体で、「必要だと思う」、「どちらかといえば必要だと思う」を合わせ、**本研究科の必要性について60%（245名）が必要と考えている。**

さらに、1000人以上の企業規模を持つ採用担当者に限定して集計すると、**68%（105名）が本研究科の設置を必要としており、規模の大きい企業からの評価が高い。**



2. 食マネジメント研究科または食総合研究科の修了生採用意向

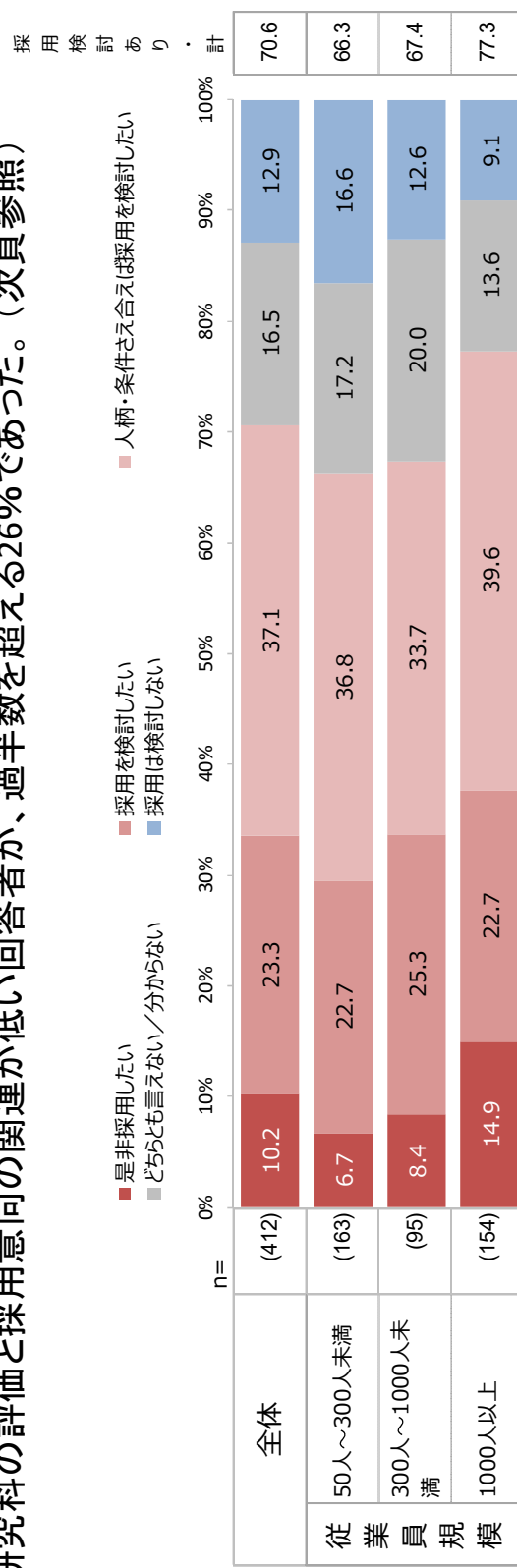
インターネットリサーチからみられる食マネジメント研究科または食総合研究科の修了生採用意向は、次の通りである。

■修了生採用意向について

回答者412名(属性は前頁)に対して本研究科を修了した学生を採用する可能性を尋ねた結果、「是非採用したい」、「採用を検討したい」を合わせ、**本研究科の必要性について71%が必要と考えている。**

さらに、1000人以上の企業規模を持つ採用担当者に限定して集計すると、77%が本研究科の設置を必要としており、やはり規模の大きい企業からの評価が高い。以上の通り、**食マネジメント研究科または食総合研究科修了生に対する採用意向は高いといえる。**

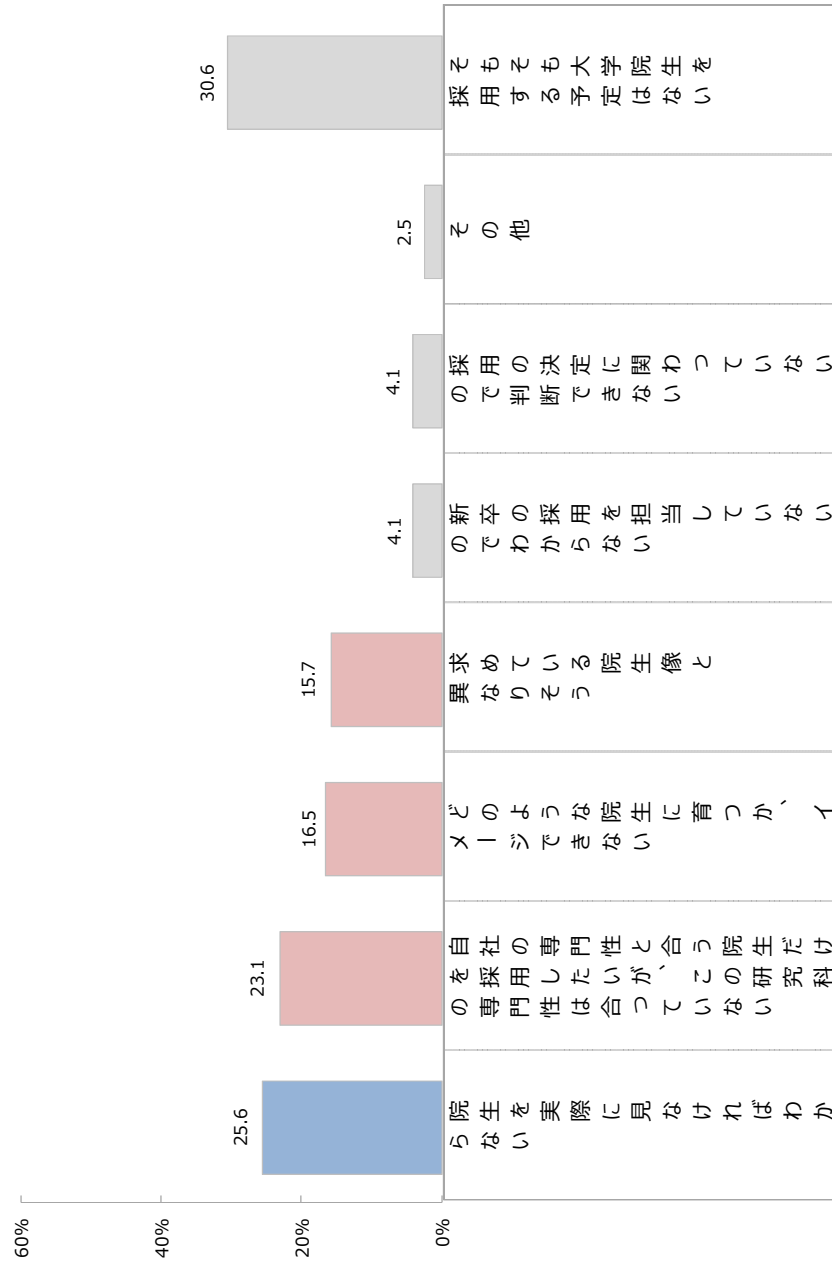
なお、「どちらとも言えない／わからない」および「採用は検討しない」のうち、人物本位の方針をとり、研究科の評価と採用意向の関連が低い回答者が、過半数を超える26%であった。(次頁参照)



3. 食マネジメント研究科または食総合研究科の修了生採用意向（補足）

■「どちらとも言えない／わからない」および「採用は検討しない」の理由
 本研究科を修了した学生を採用する可能性について「どちらとも言えない／わからない」および「採用は検討しない」と答えた回答者に理由を聴取したところ、下記の通りとなった。

「**院生を実際に見なければわからない**」と答えた26%（31名）は、人物本位の採用を行っているため、**そもそも採用意向に関して研究科の専門性を問わない方針であった。**



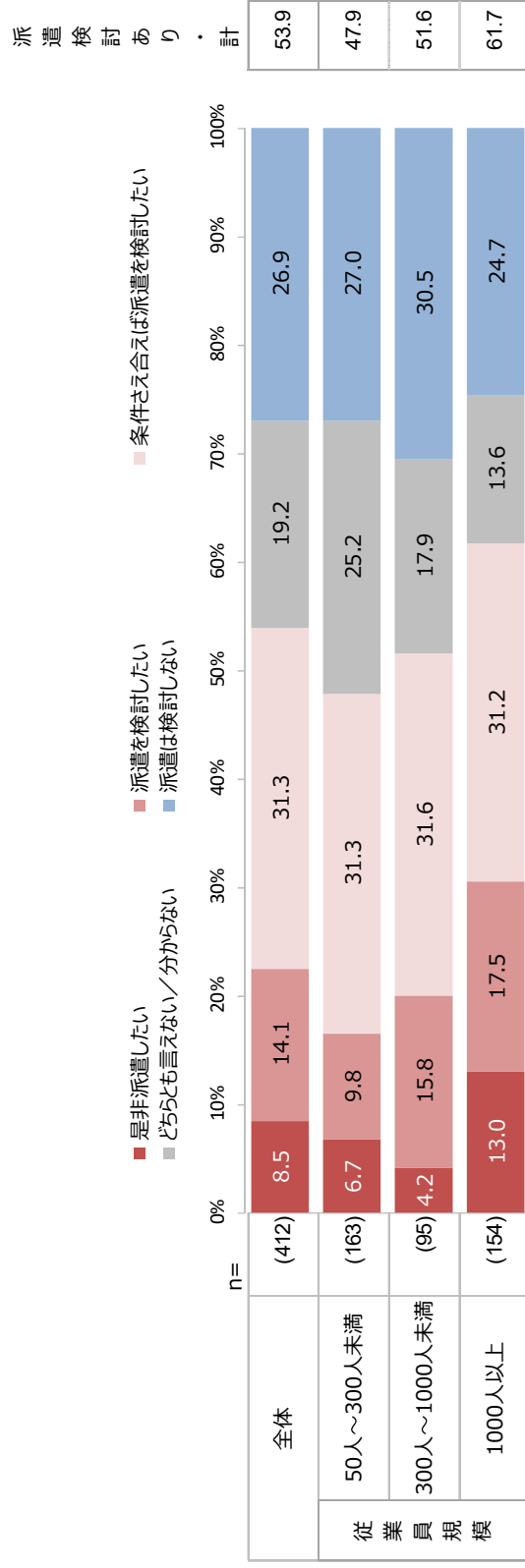
4. 大学食マネジメント研究科または立命館大学食総合研究科への従業員派遣検討

インターネットリサーチからみられる大学食マネジメント研究科または立命館大学食総合研究科への従業員派遣検討は、次の通りである。

■従業員派遣検討について

本調査回答者412名（属性は前頁）のうち、本研究科への従業員派遣について「是非派遣したい」、「派遣を検討したい」、「条件さえ合えば派遣を検討したい」を合わせ、**過半数の54%（222名）**の採用担当者から派遣検討意向があるという回答が得られた。

さらに、1000人以上の企業規模を持つ採用担当者（154名）に限定して集計すると、62%（95名）に本研究科への派遣検討意向が窺える結果となった。
ことから、社会的に大学食マネジメント研究科または立命館大学食総合研究科へ従業員を派遣することに対して社会的な需要が存在するものと考えられる。

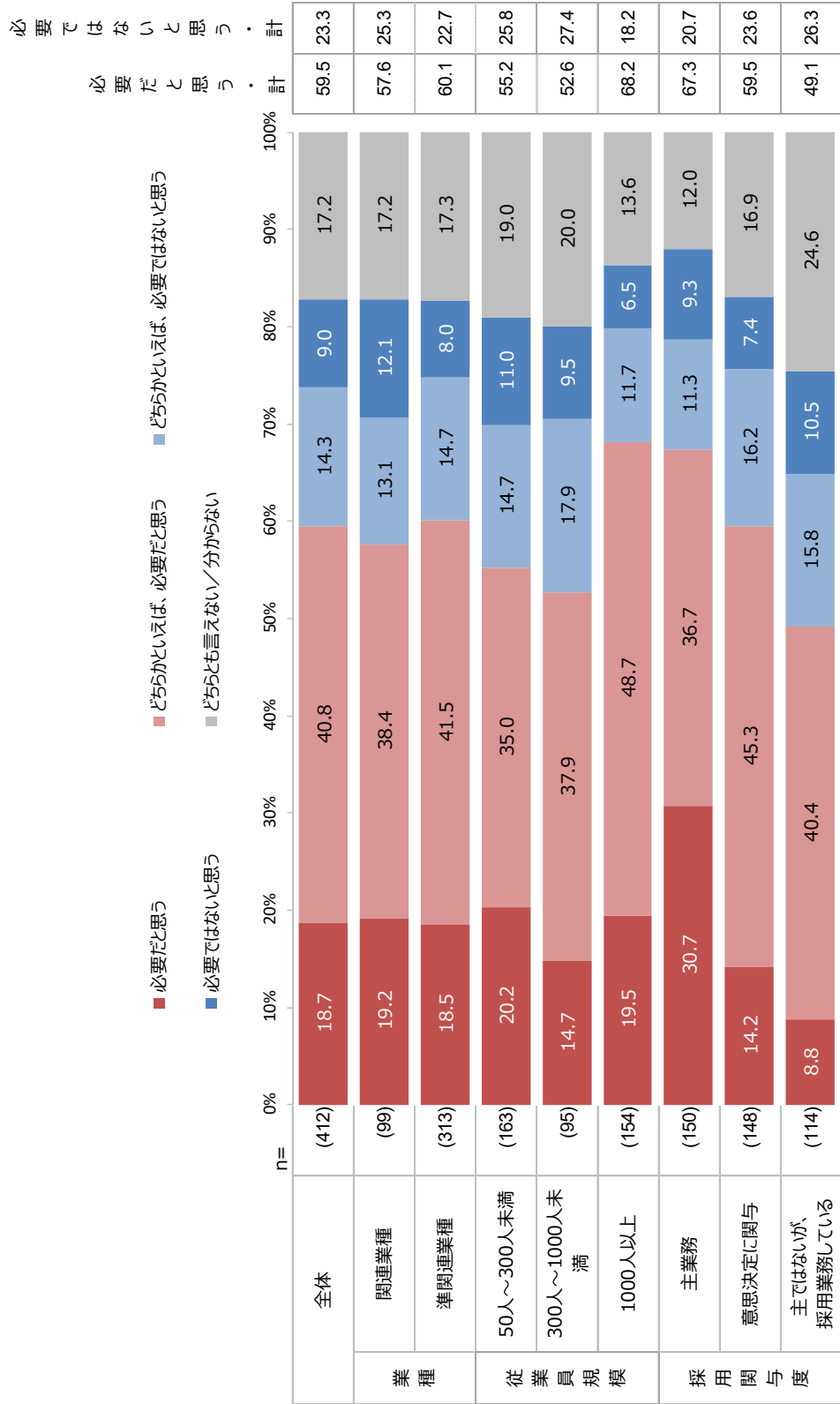


調査結果【詳細】

1. 食マネジメント研究科または食総合研究科研究科の必要性

<クロス集計： 必要性 x 業種・従業員規模・採用関与度>

- 業種別にみると、関連業種と準関連業種との間で、TOP2のスコアに差は見られない。
- 従業員規模別にみると、企業規模が大きいほど必要性が高く、1000人以上の会社では「必要だと思う・計」が68%となった。
- 採用関与度別にみると、採用を主業務とする方のスコアが特に高く、人事の視点から確かな必要性が窺える。



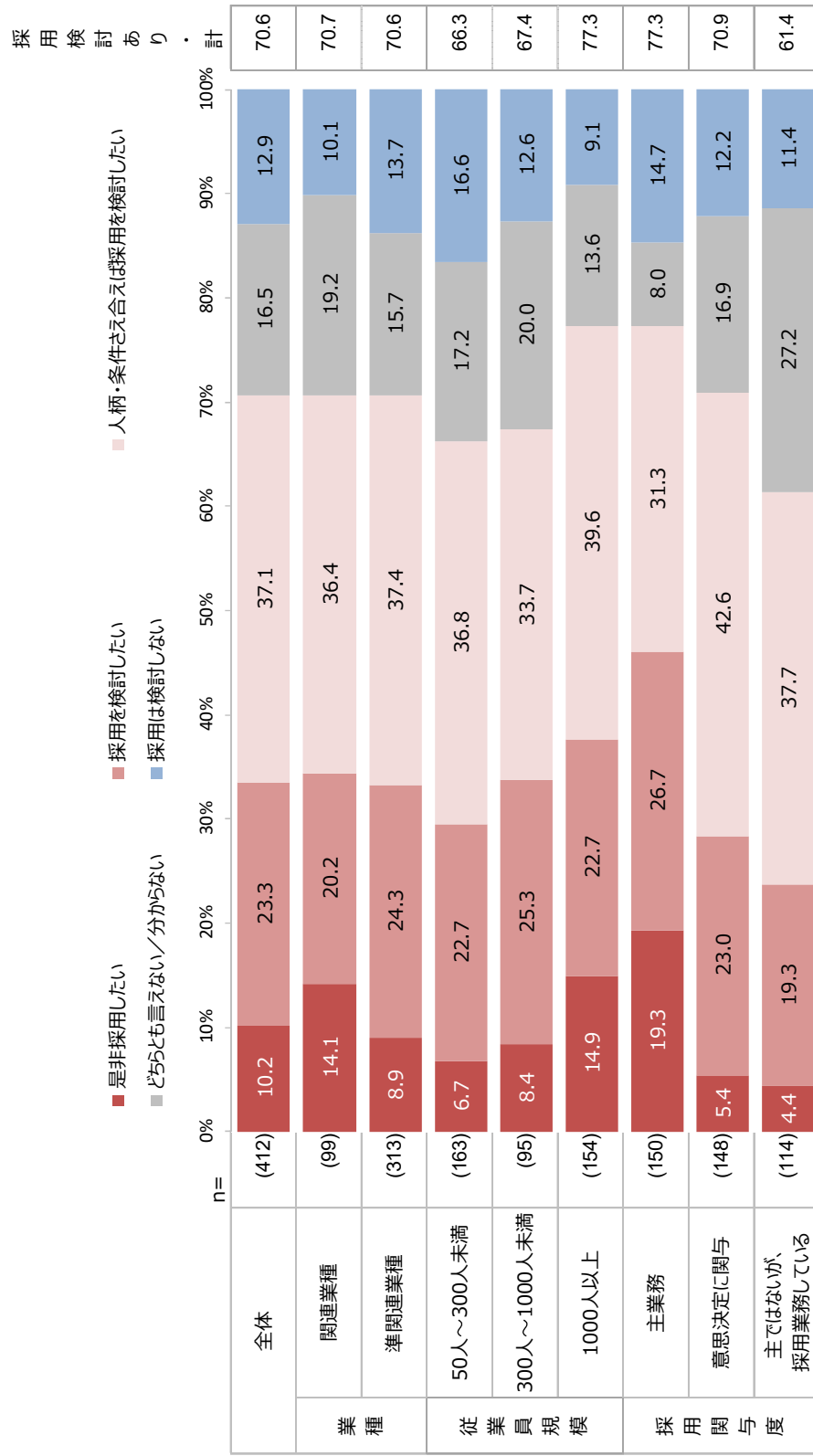
※必要だと思ふ・計 = 「必要だと思ふ」 + 「どちらかといえば、必要だと思ふ」

※必要ではないと思ふ・計 = 「どちらかといえば、必要ではないと思ふ」 + 「必要ではないと思ふ」

2. 食マネジメント研究科または食総合研究科修了生の採用意向

<クロス集計： 必要性 x 業種・従業員規模・採用関与度>

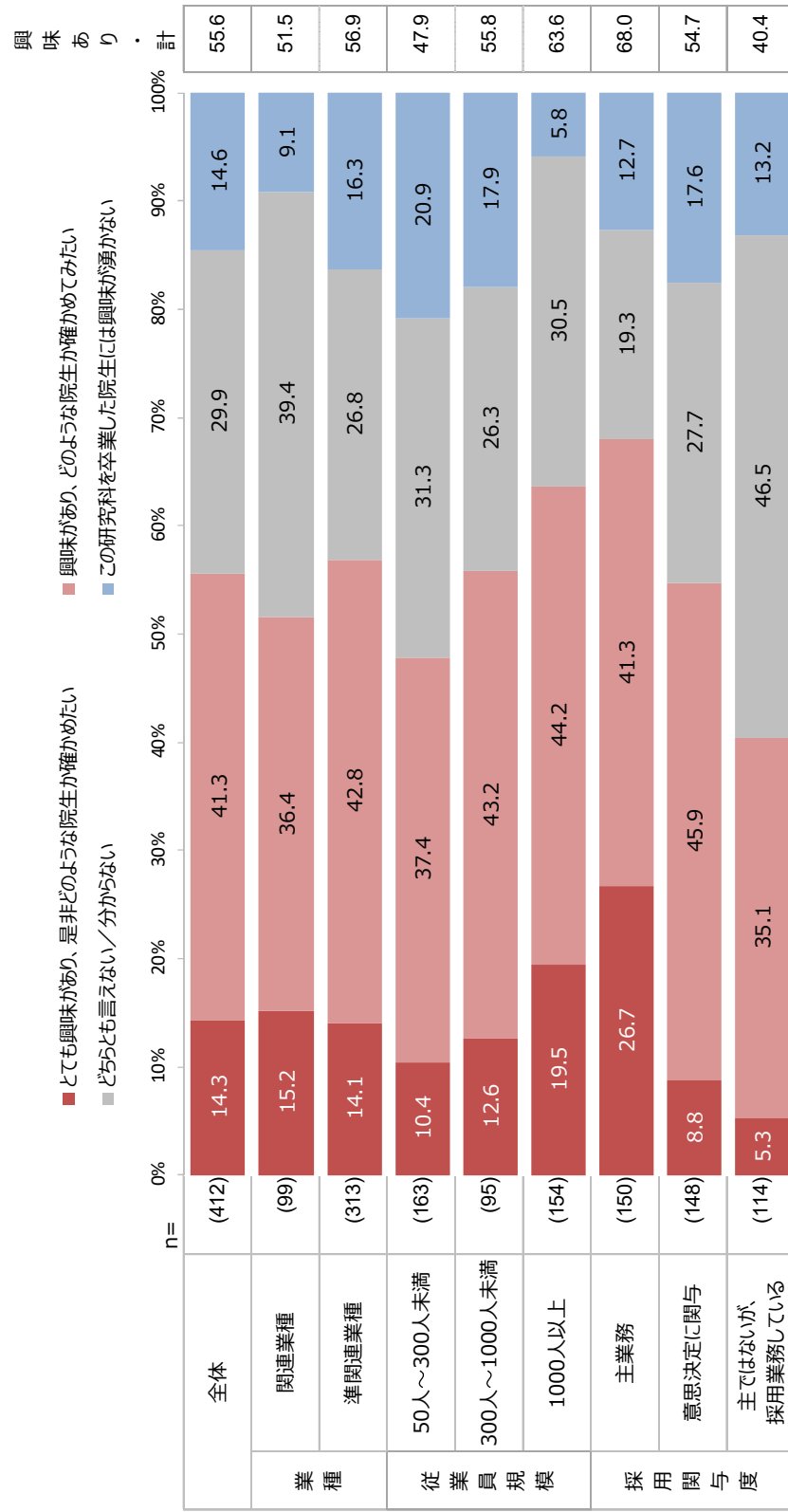
- ・ 業種別にみると、関連業種は準関連業種に比べて「是非採用したい」のスコアが高い。
- ・ **従業員規模別にみると、従業員の規模が大きいほど採用意向が高い傾向が見られる。**
- ・ 採用関与度別にみると、採用を主業務とする方の採用意向が高い。



3. 食マネジメント研究科または食総合研究科修了生への興味

＜クロス集計： 必要性 x 業種・従業員規模・採用関与度＞

- ・ 全体として、半数以上の方が“興味がある”と回答しており、この研究科の修了生に対して興味を示している。
- ・ 従業員規模別にみると、規模が大きくなるほど興味の度合いが高まる傾向がある。
- ・ 採用関与度別にみると、採用を主業務とする方の興味が特に高く、「興味あり・計」は68%となった。

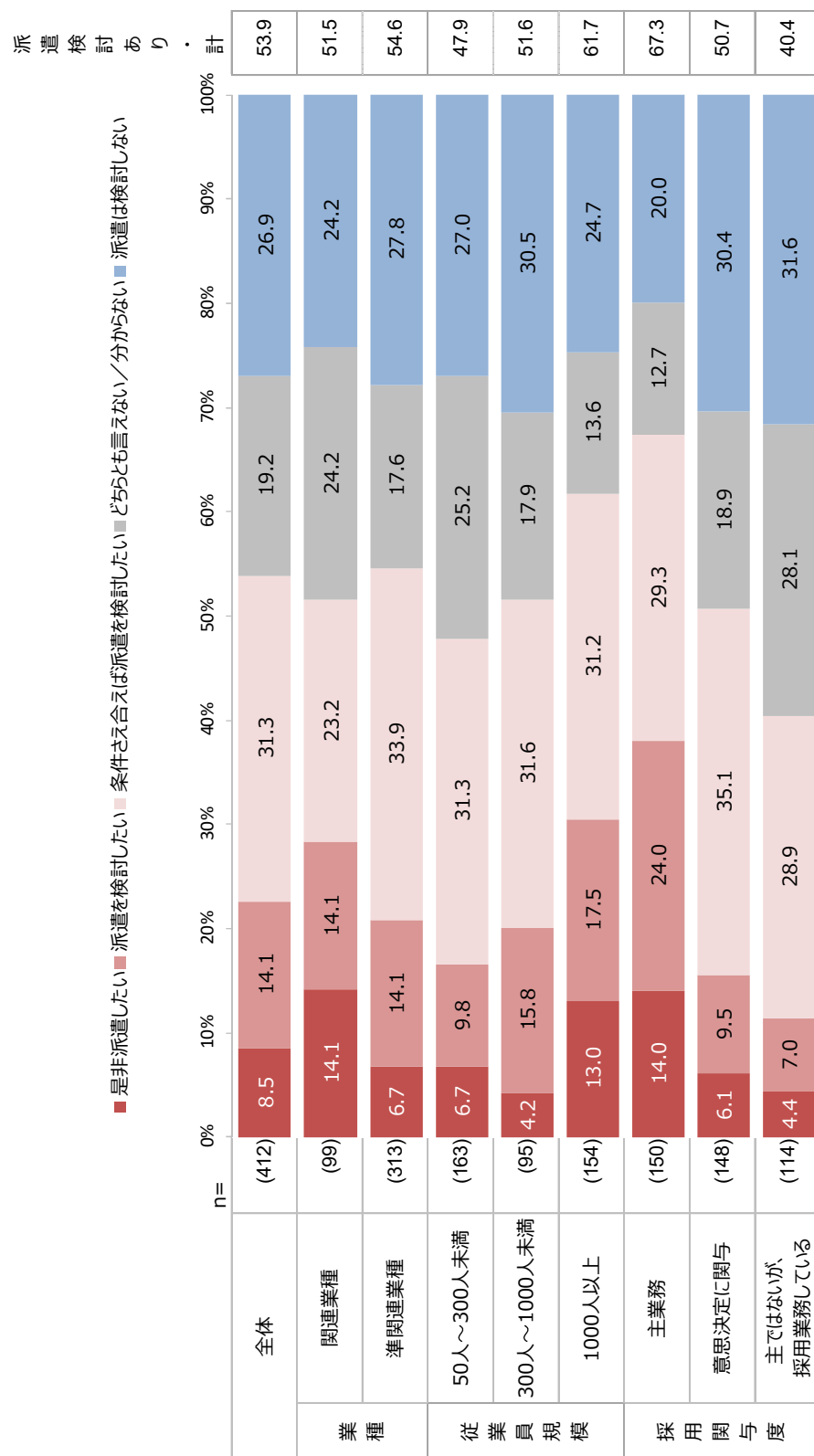


※興味あり・計 = 「とても興味があり、是非どのような院生が確かめたい」 + 「興味があり、どのような院生が確かめてみたい」

4. 食マネジメント研究科または食総合研究科の派遣意向について

＜クロス集計： 必要性 x 業種・従業員規模・採用関与度＞

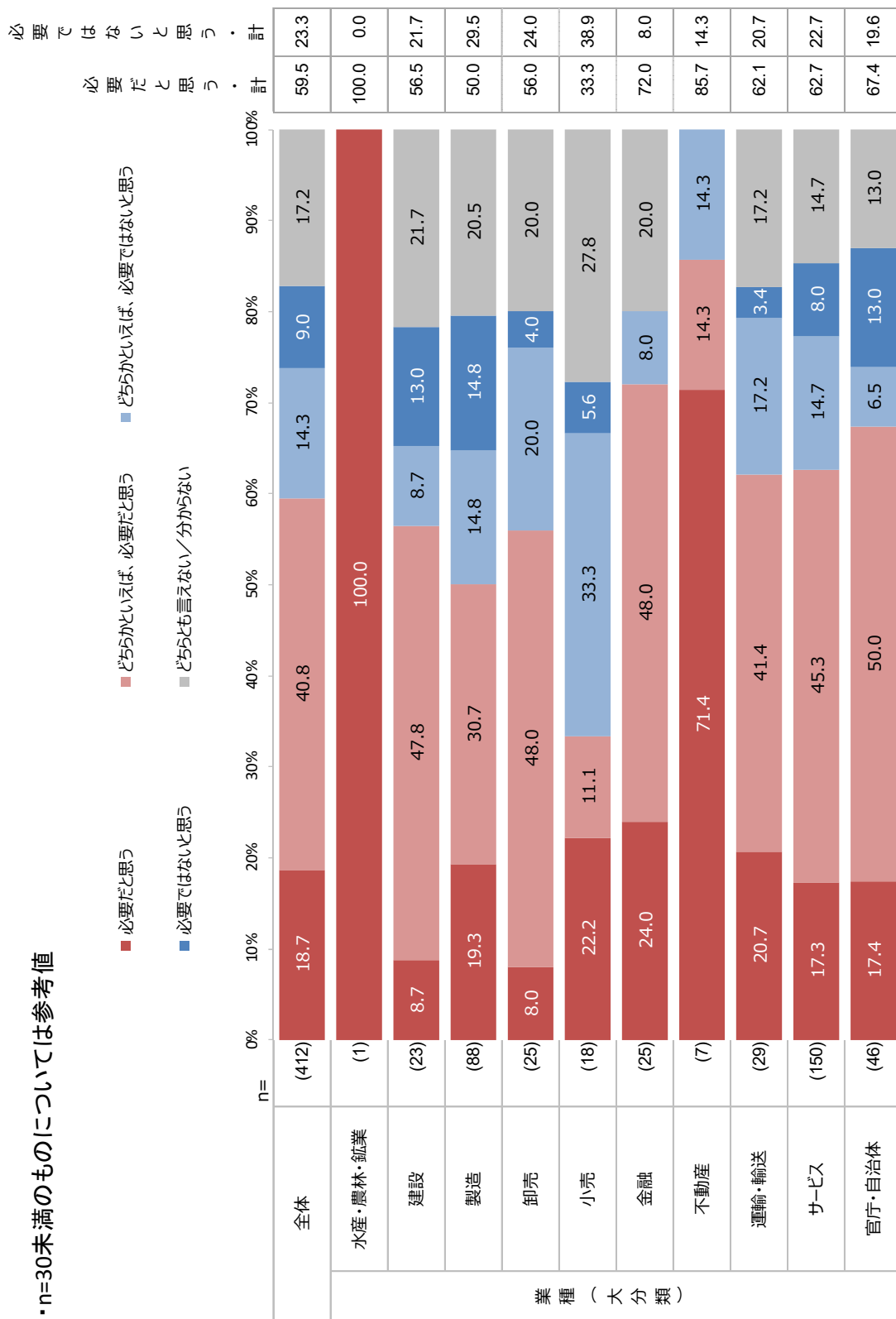
- ・ 全体で見ると、「派遣検討あり・計」は54%で約半数の回答者が派遣の意向がある。
- ・ 従業員規模別にみると、1000人以上の規模の企業において、特に派遣意向が高いことが特徴的。
- ・ 採用関与度別にみると、採用を主業務とする方の意向が高い。



1-2. 食マネジメント研究科または食総合研究科の必要性 ※業種大分類

＜クロス集計： 必要性 x 業種（大分類）＞

・n=30未満のものについては参考値



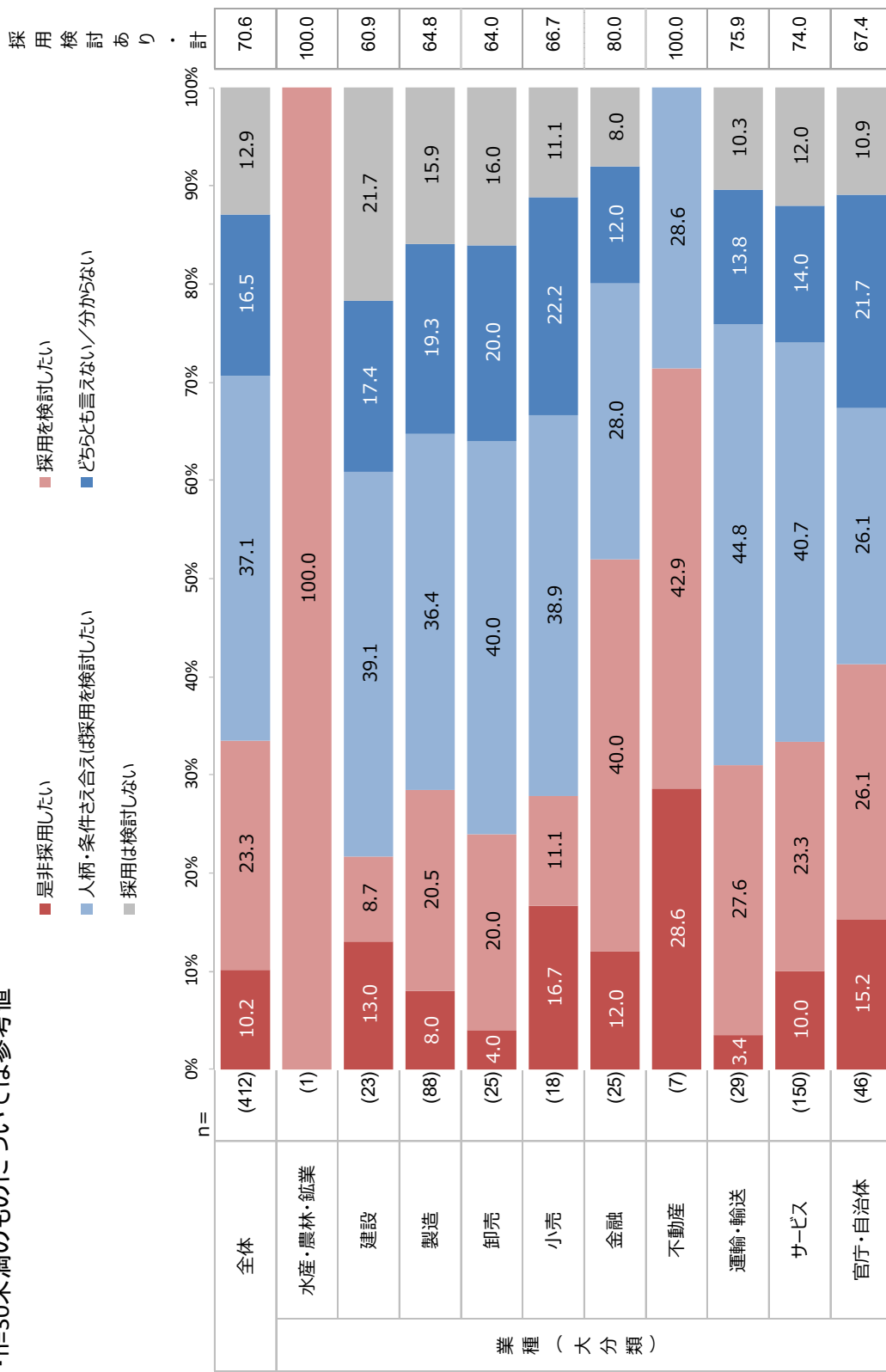
※必要だと思う・計 = 「必要だと思う」 + 「どちらかといえば、必要だと思う」
 ※必要ではないと思う・計 = 「どちらかといえば、必要ではないと思う」 + 「必要ではないと思う」

2-2. 食マネジメント研究科または食総合研究科修了生の採用意向

※業種大分類

＜クロス集計：採用意向 x 業種（大分類）＞

・n=30未満のものについては参考値

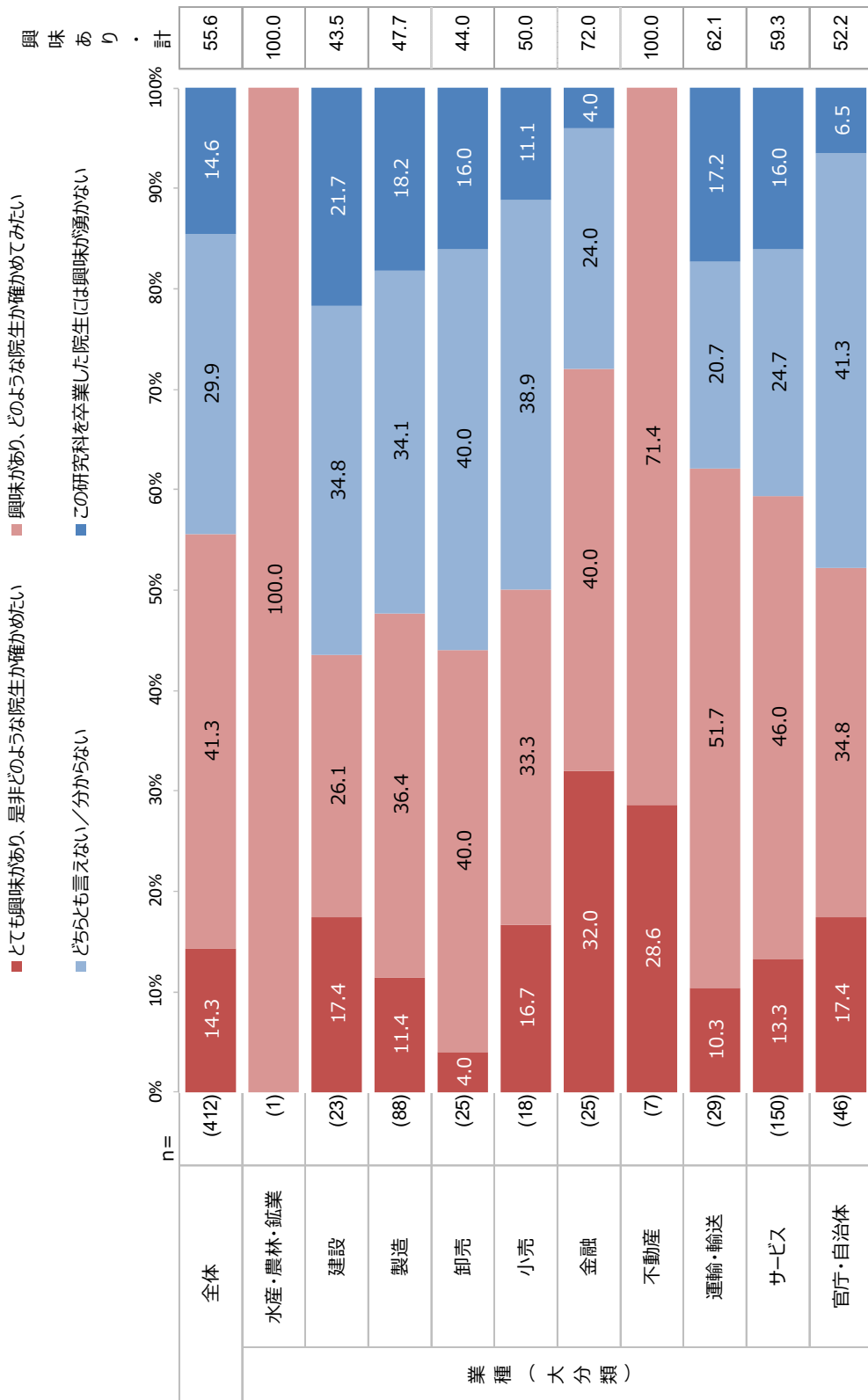


※採用検討あり・計＝「是非採用したい」＋「採用を検討したい」＋「人柄・条件さえ合えば採用を検討したい」

3-2. 食マネジメント研究科または食総合研究科修了生への興味※業種大分類

<クロス集計：興味 x 業種（大分類）>

・n=30未満のものについては参考値

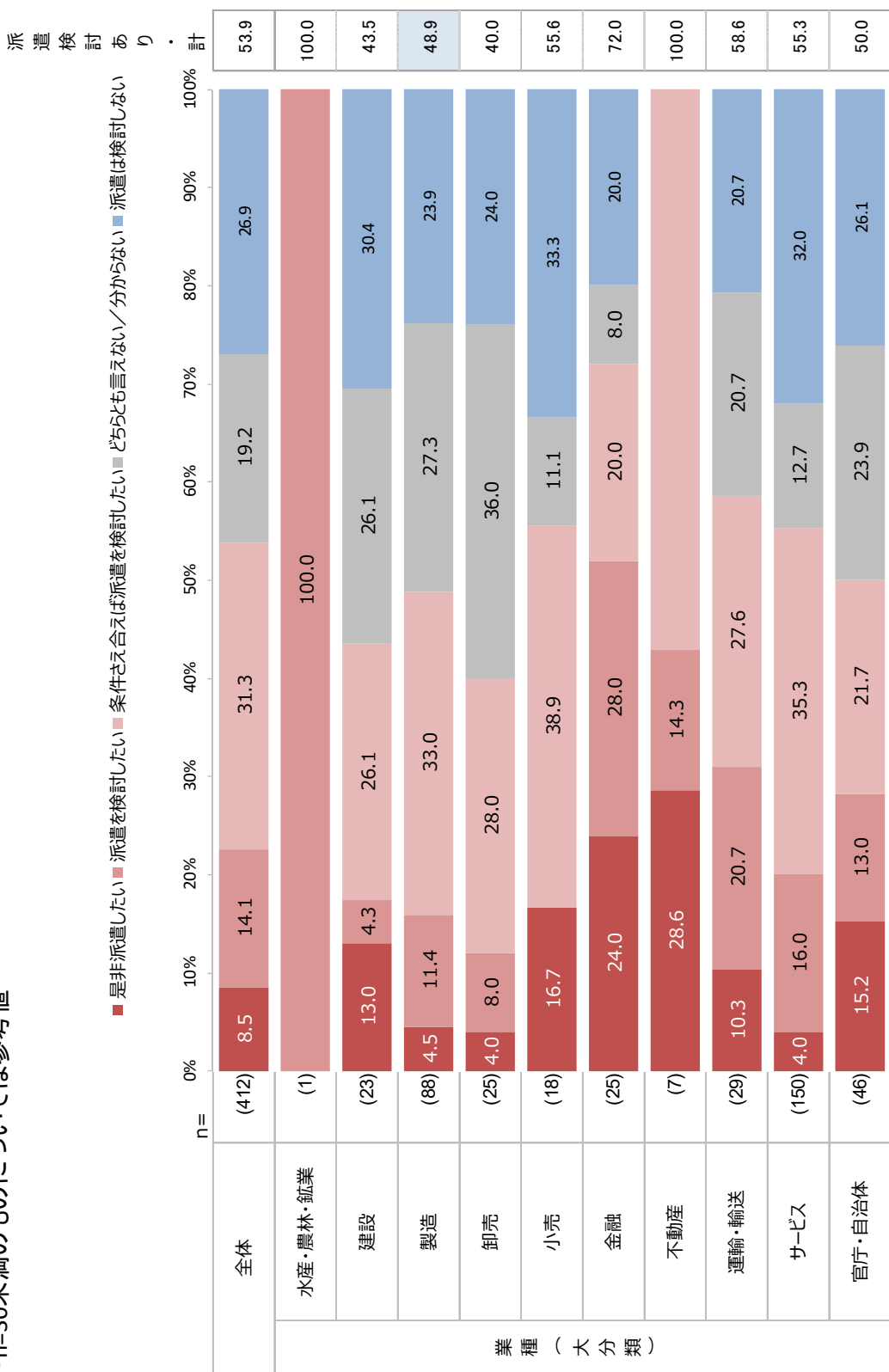


※興味あり・計 = 「とても興味があり、是非どのような院生が確かめたい」 + 「興味があり、どのような院生が確かめてみたい」

4-2. 食マネジメント研究科または食総合研究科の派遣検討について※業種大分類

＜クロス集計： 派遣意向 x 業種（大分類）＞

・n=30未満のものについては参考値



付録

■ 調査票 <事前調査>

お仕事に関するアンケート

下記アンケートにご協力をお願いします。

当アンケートの回答者の皆様へお願い

アンケートの回答にはご自身の回答内容が第三者に開示される場合があります。
当アンケートの内容および当アンケートで取得した情報については、決して第三者に開示いたしません。ご協力をお願いします。

01

あなたの現在のご職業(雇用形態)をお知らせください。
※複数選択はまる方は、メインの職業についてお答えください。

【必須入力】

- 1. 経営者・役員
- 2. 公務員
- 3. 会社員(正社員)
- 4. 会社員(契約)
- 5. 会社員(派遣)
- 6. 自営業
- 7. 自由業
- 8. パート・アルバイト
- 9. その他
- 10. 専業主婦(主夫)
- 11. 学生
- 12. 無職

02

あなたのお仕事の「業種」をお知らせください。
※先にご該当しない場合、最も近いと思われるものを選択してください。
※複数選択はまる方は、メインの業種についてお答えください。

【必須入力】

- 水産・農林・鉱業
 - 01. 水産・農林・鉱業
 - 02. 鉱業
- 建設
 - 03. 建設
- 製造
 - 04. 食品・飲料
 - 05. 繊維工業
 - 06. 衣料・繊維
 - 07. 木材・木製品
 - 08. 家具・装飾品
 - 09. パルプ・紙
 - 10. 化学・化学製品・化粧品
 - 11. 薬品・医薬品
 - 12. ゴム製品
 - 13. プラスチック製品
 - 14. 鉄鋼・非鉄
 - 15. 金属製品
 - 16. 機械器具
 - 17. 電気機器
 - 18. 輸送用機器
 - 19. 精密機器/情報通信機器
 - 20. その他製造
- 卸売
 - 21. 化学医薬卸
 - 22. 衣服繊維卸
 - 23. 食料飲料卸
 - 24. 電気機器卸
 - 25. 輸送機器卸
 - 26. その他卸
- 小売
 - 27. 百貨店
 - 28. スーパー・コンビニエンスストア
 - 29. 衣類・服飾小売
 - 30. 食品・飲料小売
 - 31. 家電器具小売
 - 32. 家電・電気器具小売
 - 33. 医薬品・化粧品小売
 - 34. その他小売
- 金融
 - 35. 銀行・信託
 - 36. 消費者金融
 - 37. レジント
 - 38. 証券・先物
 - 39. 保険
 - 40. その他金融
- 不動産
 - 41. 不動産
- 運輸・輸送
 - 42. 鉄道
 - 43. 道路輸送
 - 44. 水上輸送
 - 45. 航空輸送
 - 46. 倉庫
 - 47. 郵便・運送サービス
- サービス
 - 48. 飲食店
 - 49. 旅行
 - 50. 通信
 - 51. 電気・ガス・水道
 - 52. 修繕・リース
 - 53. 宿泊業・ホテル
 - 54. 理容・美容
 - 55. 娯楽
 - 56. 放送
 - 57. 出版・印刷
 - 58. 広告・卸売
 - 59. Sier/Nier、システム・サルヴァーム、ペンダー
 - 60. 情報サービス
 - 61. ソフトウェア
 - 62. 病院・医療
 - 63. 老人福祉・介護
 - 64. 教育
 - 65. その他サービス
- その他
 - 66. 官庁・自治体
 - 67. その他団体
 - 68. その他

■ 調査票 <事前調査>

03

あなたのお仕事の「職種」をお選びください。

※完全に該当しない場合、最も近いと思われるものを選択してください。

※複数の職種をお持ちの方は、主に業務をされているものを選択してください。

【必須入力】

- 1. 人事
- 2. 労務
- 3. 営業/営業企画
- 4. 財務/会計/経理
- 5. 総務
- 6. 施設・設備管理
- 7. 法務/知財財産
- 8. 売り場担当
- 9. 調理/ホール/フロアスタッフ
- 10. 旅行手配/ツアー・コンダクター
- 11. ホテル/宿/泊サービス
- 12. ドライバー/配達スタッフ
- 13. 鉄道・航空・船舶乗務員
- 14. 倉庫管理
- 15. 警備/守衛
- 16. 清掃関連スタッフ
- 17. ビル施設管理/メンテナンス
- 18. 不動産販売
- 19. マンション管理
- 20. 購買/物流
- 21. 仕入/商品管理
- 22. 一般事務/営業事務
- 23. 企画
- 24. 広報/IR
- 25. 調査/マーケティング
- 26. 経営企画/事業企画
- 27. 経営管理/コンサルティング(会計/専断など)
- 28. コンサルタント(人事)
- 29. コンサルタント(IT関係)
- 30. カスタマーサポート
- 31. 情報システム
- 32. 研究/開発
- 33. 生産/製造
- 34. 生産技術/生産計画
- 35. 品質管理/検査
- 36. インテリアデザイナー・インテリアコーディネーター
- 37. クリエイター/デザイナー
- 38. 建築士
- 39. 設計
- 40. プランニング・測量・積算
- 41. 施工管理
- 42. 工事/大工
- 43. MR/医療用具営業(医薬)
- 44. 管理栄養士・栄養士
- 45. 訪問介護員(ホームヘルパー)
- 46. 介護福祉士
- 47. 保健師
- 48. 医師(歯科・眼科医師以外)
- 49. 歯科医師
- 50. 眼科医師
- 51. 獣医師
- 52. 薬剤師
- 53. 看護師/准看護師/看護助手
- 54. 理学療法士/作業療法士
- 55. 歯科衛生士
- 56. 歯科技工士
- 57. 医療事務
- 58. 介護事務
- 59. その他医療機関従事者
- 60. 弁護士・弁理士・司法書士・行政書士
- 61. 公認会計士・税理士
- 62. 美容師/理容師/美容部員
- 63. 保育士/幼稚園教員
- 64. 教員(小学校〜大学院・専門学校)
- 65. 教員(その他)
- 66. 学校事務職員/用務員・教育委員会
- 67. その他

04

あなたは、採用に携わることがありますか。

【必須入力】

- 1. 採用業務を主にしている
- 2. 主ではないが、何らかの形で採用の意思決定に関与している
- 3. 主ではないが、採用業務をしている
- 4. 頻度は少ないが、採用業務をすることがある
- 5. 採用業務は行わない

05

最後に、あなたが務めている企業団体の、全体の従業員数をお選びください。

※会社全体(本社・支社・営業所などを合わせた)の従業員数をお答えください。

※正確な人数がわからない場合、最も近いと思われるものを選択してください。

【必須入力】

- 1. 5人未満
- 2. 5人〜10人未満
- 3. 10人〜20人未満
- 4. 20人〜30人未満
- 5. 30人〜50人未満
- 6. 50人〜100人未満
- 7. 100人〜200人未満
- 8. 200人〜300人未満
- 9. 300人〜500人未満
- 10. 500人〜1000人未満
- 11. 1000人〜3000人未満
- 12. 3000人〜5000人未満
- 13. 5000人以上
- 14. わからぬ/答えたくない

■ 調査票 <本調査>

あなたご自身に関するアンケート

下記アンケートにご協力をお願いします。

当アンケートの回答者の皆様へお願い

アンケートの回答内容は2週間以内で別画面にて印刷されたアンケートの画像を掲載しております。

当アンケートの内容および写真アンケートでの印刷されたアンケートについては、決して第三者に口外しないよう表示板やホームページの書き込み等を含む、ご協力をお願いします。

【調査内容についての守秘義務遵守のお願い】

当アンケートの内容および当アンケートで知得た情報は、決して第三者に開示または漏れないようお願いいたします。
また、調査で提示された内容や画像等を、掲示板やホームページへ書き込み行為も固く禁じております。

くれぐれもそのような行為の無いよう、改めてお願い申し上げます。

01 上記の内容にご同意いただき、本アンケートにご参加いただけますか。

【必須入力】

1. 同意する
 2. 同意しない

◆まずは、下記リーフレットをご一読ください。

◆一通りご覧いただいた「研究科」について、お伺いいたします。

▼ 以下のボタンをクリックすると別画面で画像表示されます。▼

別画面に表示される画像全体をよくご覧ください。

※転載、複製は固く禁じます。

▶ リーフレットを表示

02 人事や採用に携わるあなたの立場でお答えください。

あなたは、この研究科の必要性についてどう思いますか。

【必須入力】

1. 必要だと思う
 2. どちらかといえば、必要だと思う
 3. どちらかといえば、必要ではないと思う
 4. 必要ではないと思う

▼ 以下のボタンをクリックすると別画面で画像表示されます。▼

別画面に表示される画像全体をよくご覧ください。

※転載、複製は固く禁じます。

▶ リーフレットを表示

03 では、ご覧いただいたようにリーフレットの内容で学びを通じて卒業した院生を、採用することについて、どのように思いますか。

【必須入力】

1. 是非採用したい
 2. 採用を検討したい
 3. 人柄・条件さえ合えば採用を検討したい
 4. どちらとも言えない/分からない
 5. 採用は検討しない

04 前の質問で、採用をしたい/検討したいと思わなかった理由を全て、お答えください。

【必須入力】

1. 院生を実際に見なければわからない
 2. 新卒の採用を担当していないのでわからない
 3. 採用の決定に関わっていないので判断できない
 4. 自らの専門性と合う院生だけを採用したいが、この研究科の専門性は合っていない
 5. どのような院生に育つか、イメージできない
 6. 求めている院生像と異なりそう
 7. その他
8. そもそも大学院生を採用する予定はない

■ 調査票 <本調査>

▼ 以下のボタンをクリックすると別画面で画像表示されます。▼

別画面に表示される画像全体をよくご覧ください。

※転載、複製は固く禁じます。

▶ リーフレットを表示

Q5 では、採用するか別として、

ご覧いただいたようなリーフレットの内容で学びを得て卒業した院生に、

どの程度興味がありますか。

【必須入力】

- 1. とても興味が有り、是非どのような院生か確かめたい
- 2. 興味が有り、どのような院生か確かめてみたい
- 3. どちらとも言えない/分からない
- 4. この研究科を卒業した院生には興味が湧かない

▼ 以下のボタンをクリックすると別画面で画像表示されます。▼

別画面に表示される画像全体をよくご覧ください。

※転載、複製は固く禁じます。

▶ リーフレットを表示

Q6 あなたは、自社の従業員の教育・研修として、

このような知識を身に着ける研究科に従業員を派遣したいと思いませんか。

【必須入力】

- 1. 是非派遣したい
- 2. 派遣を検討したい
- 3. 条件さえ合えば派遣を検討したい
- 4. どちらとも言えない/分からない
- 5. 派遣は検討しない

食に関わる大学院構想についてのアンケート

(仮称:立命館大学食マネジメント研究科または立命館大学食総合研究科)

現在、立命館大学では、2021年度に食を総合的に研究する新しい大学院を設置し、博士課程前期課程と博士課程後期課程を一体的に開設することを検討しています。そのうち博士課程前期課程について、以下の構想概要をお読みいただいた上で、裏面アンケートへのご協力をお願いいたします。なお、本アンケートにつきましては、新大学院設置にかかわる統計資料としてのみ活用いたしますので、成績評価等には一切関係ありません。

大学院構想の概要

設置の理念

食マネジメント学部は、マネジメント領域を中心に、カルチャー、テクノロジー領域も含め、食を多様な面から総合的に学ぶことができる学部として2018年4月に開設されました。今後の教育研究の発展に向けて、この学部を基盤とした大学院研究科の設置について、検討を進めています。

設置を検討している新しい研究科は、食マネジメント学部のコンセプトを引き継いで教学内容を高度化・深化させるとともに、食科学(*)の教育研究を発展させる拠点としての役割を担います。本研究科は、同学部の卒業生や、食の研究・発展的学習に深い関心を抱く本学部以外の卒業生、そして現在食に関わっている社会人等を受け入れます。

本研究科は、食科学を、総合的かつ文理総合の視点から発展させるべく、これまで各専門分野に分断され、個々に発展してきた食の研究を学術的に総合し俯瞰することを図ります。食の持つ本来の多面性を統合的に研究することで、食科学についての基礎的研究を蓄積すると共に、現代社会の抱える食に係る重要課題の解決策を提示しうる研究を進め、食科学に関する研究の到達点を踏まえた教育を行うことによって、人類の未来を切り拓く人材を育成することを目指します。

(*)食科学の学びの体系とは、食との関わりのなかで、「人間の生活環境としての社会を系統的・実証的に分析する社会科学」、「人間の生活の営みや文化活動を分析し理解する人文科学」、「食材から体内への取り込みと認知までの一連の科学的な仕組みを理解する自然科学」という三つの視点からの研究成果を視野に捉え、具体的に社会の発展へ還元する実践を可能とするための総合的な学びの体系です。

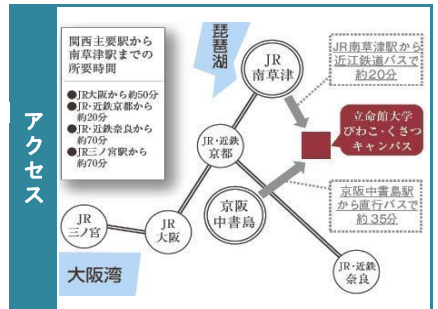
養成する人材像

(博士課程前期課程)

本研究科は、食と社会の関係を、経済学・経営学を中心に総合的に研究し、その知識を実践において応用する際に指導的役割を果たすとともに、高度なマネジメント能力を有する専門職業人を育成します。

大学院概要

名称: 立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科
 開設時期: 2021年4月1日
 開設場所: びわこ・くさつキャンパス(滋賀県草津市野路東1-1-1)
 入学定員: 博士課程前期課程 20名 博士課程後期課程 3名
 収容定員: 博士課程前期課程 40名 博士課程後期課程 9名

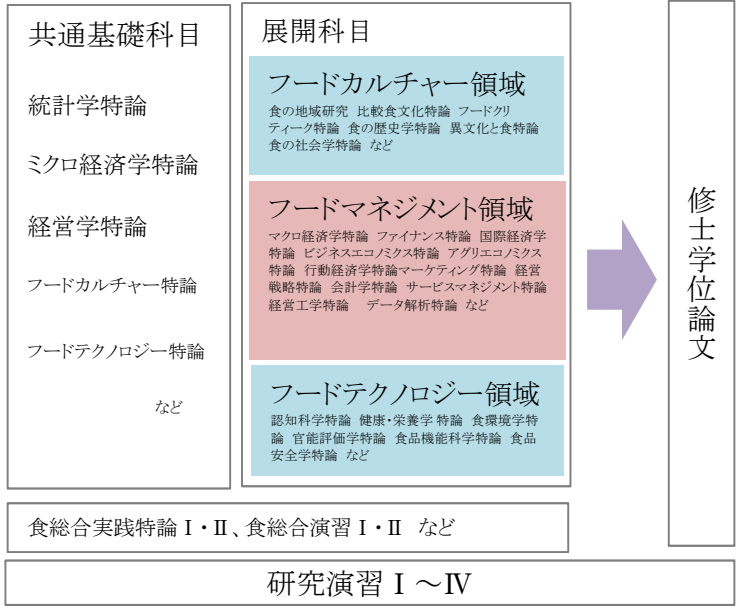


博士前期課程内容(予定)

- **フードイノベーションを学ぶ**
新製品、経営革新、新規事業、消費者行動、人材育成(経済活性化、生産性の向上)など
- **地域・サステナビリティを学ぶ**
持続可能な地域振興社会づくり(農・漁業、資源、コミュニティ、食品ロス、食文化)
- **福祉・健康コーディネーションを学ぶ**
健康管理ができる地域社会づくり(高齢化・少子化時代の高齢者、児童)
- **多文化共生を学ぶ**
異なる宗教や文化に対応した社会・企業づくり(外国人の労働者・訪問者の増加)

など

カリキュラム



想定進路

食関連ビジネスの付加価値創出、国・地域振興の担い手へ

- ・分野: 学術研究・リサーチ、食品関連製造業、流通、小売、運輸、サービス業、医療福祉、公務、農業・漁業、情報産業 等
- ・職種: 開発・研究職、マーケター、リサーチャー、バイヤー、コンサルタント、行政職、経営者、スーパーバイザー、プロジェクトマネージャー、ジャーナリスト、進学 等

学費

大学名/研究科名	初年次納付金
立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科	1,100,000 円程度
宮城大学食産業学専攻	1,099,800 円
北海道大学国際食資源学院国際食資源学専攻	817,800 円
龍谷大学大学院農学研究科食農科学専攻	1,154,600 円

アンケートは裏面です

※立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科の学費は博士前期課程のもので、予定です。
 ※他大学の学費は各大学ホームページ掲載情報です(2019年4月時点)。
 ※いずれの大学も諸会費を含みません。

※ 2019年4月19日時点の構想内容です(今後変更となる場合があります)。

Q1 最初に、あなたのご所属についてお聞きます。

項目	人数(人)	割合(%)
高等教育機関(大学・大学院等)	3	7.0
研究機関(産業総合研究所等)	2	4.7
企業等(研究・開発等の部門)	32	74.4
企業等(上記以外の部門)	5	11.6
その他	1	2.3
計	43	100.0

Q2 あなたの職位について、教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
教授(相当含む)	1	2.3
助教	2	4.7
大学院生	1	2.3
その他	1	2.3
*	38	88.4
計	43	100.0

Q3 お勤め先におけるあなたの役職をお知らせください。

項目	人数(人)	割合(%)
役員クラス	1	2.3
部長クラス	1	2.3
課長クラス	10	23.3
係長・主任クラス	1	2.3
一般社員	24	55.8
*	6	14.0
計	43	100.0

Q4 最終の学位について教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
学士	11	25.6
修士	24	55.8
博士	6	14.0
博士課程後期課程修了(中退含む)	1	2.3
その他	1	2.3
計	43	100.0

修士(見込)

Q5 あなたの専門について、主となる学問領域を教えてください。(複数選択可)

項目	人数(人)	割合(%)
人文学系(文学など)	2	3.9
社会学系(法学、社会学、経済学、経営学など)	1	2.0
教育学系(教育学など)	1	2.0
理学系(理学など)	5	9.8
工学系(工学など)	4	7.8
医学系(医学、歯学など)	1	2.0
薬学系(薬学など)	3	5.9
看護学系(看護学など)	0	0.0
農学系(農学、獣医学など)	23	45.1
生活学・栄養学系(生活科学、栄養学など)	9	17.6
体育学系(体育学、スポーツ健康科学など)	1	2.0
芸術学系(芸術学など)	0	0.0
その他	1	2.0
計	51	100.0

食品/分析・官能評価/機能探索など

Q6 あなたにとって、この研究科は、どの程度興味が湧きますか？

項目	人数(人)	割合(%)
興味が湧く	10	23.3
やや興味が湧く	27	62.8
どちらともいえない	5	11.6
あまり興味が湧かない	1	2.3
まったく興味が湧かない	0	0.0
計	43	100.0

Q7 あなたはこの研究科に入学して研究を行いたいと思いますか。

項目	人数(人)	割合(%)
入学して研究を行いたい	4	9.3
どちらかと言えば入学して研究を行いたい	24	55.8
どちらかと言えば入学して研究を行いたくない	11	25.6
入学して研究を行いたくない	4	9.3
計	43	100.0

Q8 1大学院に進学を検討する際に、大学院への進学へのネックとなることがあれば教えてください。(複数選択可)

項目	人数(人)	割合(%)
学費	21	24.7
生活費	14	16.5
研究活動	13	15.3
修了後の就職	15	17.6
通学	15	17.6
その他	6	7.1
進学のネックとなることはない	1	1.2
計	85	100.0

<その他自由記述>
 業務との両立
 勤務先の支援の有無
 現在の業務と両立(休職)の可否
 現在の仕事・家庭との両立
 現在の生活では、大学院への進学はとて考えられません。
 仕事との両立

Q9 あなたの関係している研究者や大学院生で、この研究科に興味を持ち、志望する方はいらっしゃるのでしょうか。

項目	人数(人)	割合(%)
興味を持ち、志望する人がいる	2	4.7
興味を持ち、志望する人がいるかもしれない	37	86.0
興味を持ち、志望する人はいない	4	9.3
計	43	100.0

開始ページ

タイトル

立命館大学に新設される博士課程後期課程に関するアンケート

メッセージ

立命館大学大学院では、食総合研究科もしくは食マネジメント研究科として、新しく博士課程後期課程の設置を構想しております。つきましては、下記、アンケートにご協力ください。

改ページ

Q1. 最初に、あなたのご所属についてお聞きます。

*

高等教育機関(大学・大学院等)

教育機関(大学・大学院以外)

研究機関(産業総合研究所等)

企業等(研究・開発等の部門)

企業等(上記以外の部門)

その他

改ページ

この質問を表示する条件“Q1”で“高等教育機関(大学・大学院等)”を“選択した”[もしくは]“Q1”で“教育機関(大学・大学院以外)”を“選択した”[もしくは]“Q1”で“研究機関(産業総合研究所等)”を“選択した”

Q2. あなたの職位について、教えてください。

*

教授(相当含む)

准教授

助教

助手

大学院生

その他

この質問を表示する条件“Q1”で“企業等(研究・開発等の部門)”を“選択した”[もしくは]“Q1”で“企業等(上記以外の部門)”を“選択した”

Q3. お勤め先におけるあなたの役職をお知らせください。

役員クラス

部長クラス

課長クラス

係長・主任クラス

一般社員

契約社員・派遣社員

その他

Q4. 最終の学位について教えてください。

*

学士

修士

博士

博士課程後期課程修了(中退含む)

その他

改ページ

Q5. あなたの専門について、主となる学問領域を教えてください。

* (複数選択)

人文学系(文学など)

社会学系(法学、社会学、経済学、経営学など)

教育学系(教育学など)

理学系(理学など)

工学系(工学など)

医学系(医学、歯学など)

薬学系(薬学など)

看護学系(看護学など)

- 農学系(農学、獣医学など)
- 生活学・栄養学系(生活科学、栄養学など)
- 体育学系(体育学、スポーツ健康科学など)
- 芸術学系(芸術学など)
- その他

改ページ

大学院構想の概要

設置の理念

食マネジメント学部は、マネジメント領域を中心に、カルチャー、テクノロジー領域も含め、食を多様な面から総合的に学ぶことが出来る学部として2018年4月に開設されました。今後の教育研究の発展に向けて、この学部を基盤とした大学院研究科の設置について、検討を進めています。設置を期している新しい研究科は、食マネジメント学部の中核となる分野として、食の分野を幅広く、高度化させた上には、食の分野での教育研究を進展させる観点としての役割を担います。本研究科は、同学部の卒業生や、食の研究・発展の学習に関心をもつ学部以外の卒業生、そして現在食に関わっている社会人等を受け入れます。

本研究科は、食科学を、総合かつ文理総合の視点から発展させるべく、これまで各専門分野に分断され、個々に発展してきた食の研究を学術的に統合し発展させることとなります。食の持つ本来の多面的な統合的研究を推進することによって、食料の持つ基礎的研究を蓄積することなしに、現代社会の発展に資する食の発展の現状を踏まえた上での研究を進め、食料に関わる研究の高度化を推進する教育を行うことにより、人類の未来を切り拓く人材を育成することを目的とします。

①食科学の学びの体系とは、食との関わりの中で、人間の生活環境としての社会を系統的・実証的に分析する社会科学、人間の生活の営みや文化活動を分析理解する人文科学、食の体内への取り込みと認知までの一連の科学的な仕組みを理解する自然科学という三つの視点からの研究成長を視野に捉え、具体的に社会の発展へ還元する貢献を可能とするための総合的な学びの体系です。

博士課程後期課程

本研究科は、食科学に関する高度に専門的な研究能力と技術を修得した上で、食に関連する人間性の拡大、食の持つ多面的な統合的研究の推進を図り、総合的・体系的な視点から複雑な社会の問題を解決することを目指す人材を育成します。



アカデミア

大学院

大学院概要

学 科 名 称：立命館大学大学院食マネジメント研究科または食総合研究科
 開設時期：2021年4月1日
 開設場所：1対こ・くまヶ丘キャンパス(滋賀県草津市野路車1-1-1)
 入学定員：博士課程前期課程 20名 博士課程後期課程 3名
 収容定員：博士課程前期課程 40名 博士課程後期課程 9名

特長

- **フードイノベーションを学ぶ**
食製品、経営事業、食料事業、消費者行動、人材育成(産学連携型、企業性の高い)
- **地域・サステイナビリティを学ぶ**
持続可能な地域振興社会づくり(農・漁業、資源、エコロジー、食品ロス、食文化)
- **福祉・健康コーディネーションを学ぶ**
健康を維持できる地域社会づくり(高齢化・少子高齢化時代の課題等、健康)
- **多文化共生を学ぶ**
異なる食文化に起因した社会・企業づくり(外国人労働者・多国籍企業の展開)

カリキュラム

共通基礎科目

前期課程

後期課程

修士課程

修士学位論文

知見連携

食関連ビジネスの付加価値創出、国・地域振興の担い手へ

・分野：学術研究・リサーチ、食品関連製造業、流通、小売、運輸、サービス業、医療福祉、公務、農業・漁業、情報産業 等
 ・職種：開発・研究開発、マーケティング・リサーチ、企画・プロデュース、マネジメント、行政職、総務、マーケティング、プロジェクトマネージャ、ジャーナリスト等

学 科 名	初年度納付金
立命館大学大学院食マネジメント研究科または食総合研究科	800,000 円程度
京都大学大学院食産業学研究所食産業学専攻	1,099,800 円
北海道大学大学院国際食資源学研究所食資源学専攻	817,800 円
慶応大学大学院食科学研究科食科学専攻	1,154,600 円

※立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科の学費は博士課程課程なので、予定です。
 ※他大学の学費は各大学ホームページ掲載情報で(2019年4月時点)。
 ※1年間の大学院修業期間を想定しています。

※ 2019年4月19日時点の構想内容です(今後変更となる場合があります)。

次からの設問については、上記の新しい研究科についての説明を読んだ上で、お答えください。

改ページ

Q6. あなたにとって、この研究科は、どの程度興味が湧きますか？

*

- 興味が湧く
- やや興味が湧く
- どちらともいえない
- あまり興味が湧かない
- まったく興味が湧かない

改ページ

この質問を表示する条件 “Q4” で “博士” を “選択しなかった” [もしくは] “Q4” で “その他” を “選択しなかった”

Q7. あなたはこの研究科に入学して研究を行いたいと思いますか。

*

- 入学して研究を行いたい
- どちらかと言えば入学して研究を行いたい
- どちらかと言えば入学して研究を行いたくない
- 入学して研究を行いたくない

改ページ

他の選択肢と同時に選べない選択肢 “進学のネックとなることはない”

この質問を表示する条件 “Q7” で “入学して研究を行いたくない” を “選択しなかった”

Q8. 大学院に進学を検討する際に、大学院への進学のネックとなることがあれば教えてください。

* (複数選択)

- 学費
- 生活費
- 研究活動
- 修了後の就職
- 通学
- その他

進学のネックとなることはない

改ページ

Q9. あなたの関係している研究者や大学院生で、この研究科に興味を持ち、志望する方はいらっしゃるでしょうか。

*

- 興味を持ち、志望する人が多くいる
- 興味を持ち、志望する人がいる
- 興味を持ち、志望する人がいるかもしれない
- 興味を持ち、志望する人はいない

基本情報



Q. 性別 男性 回答を必須にする
女性

Q. 年齢 選択してください 回答を必須にする

Q. 都道府県 選択してください 回答を必須にする

Q. 市区町村 選択してください 回答を必須にする

改ページ

終了ページ



メッセージ

ご協力ありがとうございました。

「食」に関わって経済学分野に近い教育を実施する他の私立・国立・公立大学の大学院・専攻等の学生納付金

大学院名	研究科等	課程	2年間納付金	初年度納付金	2年次納付金
立命館大学大学院	食総合研究科(仮称)	博士課程前期課程	1,800,000	1,000,000	800,000
宮城大学大学院	食産業学研究科食産業学専攻	博士前期課程	1,635,600	1,099,800	535,800
北海道大学大学院	国際食資源学院国際食資源学専攻	修士課程	1,353,600	817,800	535,800
龍谷大学大学院	農学研究科食農科学専攻	修士課程	2,109,200	1,154,600	954,600

大学院名	研究科等	課程	3年間納付金	初年度納付金	2年次納付金
立命館大学大学院	食総合研究科(仮称)	博士課程後期課程	1,700,000	700,000	500,000
宮城大学大学院	食産業学研究科食産業学専攻	博士後期課程	2,171,400	1,099,800	535,800
北海道大学大学院	国際食資源学院国際食資源学専攻	博士課程	1,889,400	817,800	535,800
龍谷大学大学院	農学研究科食農科学専攻	博士課程	3,063,800	1,154,600	954,600

※立命館大学食マネジメント研究科または食総合研究科の学費は予定です。

※他大学の学費は各大学ホームページ掲載情報です(2019年9月時点)。

※いずれの大学も諸会費を含みません。

1. 書類等の題名

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料8（67 ページ）

経済解析室（経済産業省）飲食関連産業の動向（FBI：2018年）

2. 出典

経済産業省 大臣官房 調査統計グループ 経済解析室

3. 引用範囲

<https://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikeizai/pdf/h2amini126j.pdf>